

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023(愛称:京からはばたく, 学びプラン)」の進捗状況概要版
(令和3年度に進捗のあった主な事業)

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
京都ならではのフィールドにおける新たな単位互換科目の開設 【(1)-①(P1)】	京都ミュージアムPBL科目	京都ならではのフィールドにおける新たなアクティブラーニングによる単位互換科目として、令和2年度開設。文化都市京都の利点を活かし、京都に集まる多様な博物館(ミュージアム)をフィールドに京都の持つ魅力的な文化を学びながら、そこにある様々な課題に取り組むことでチームワークを活かし、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる人材を育成。	「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4科目を開講し、全科目合計で78名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4科目を開講する。 ・「京都世界遺産PBL科目」は5大学・6科目を開講する。 ・いずれもオンラインと対面での活動を併用して実施する。 ・受講者確保に向け積極的に広報活動を行うとともに、着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、相互の積極的なサポートを実施する。 	
	京都世界遺産PBL科目	京都の世界遺産をフィールドにPBLを展開する科目を実施。	「京都世界遺産PBL科目」は4大学・5科目を開講した。全科目合計で93名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。		
大学間連携の取組を活用した、教員免許等資格取得に必要な科目の履修支援 【(1)-④(P1)】	日曜講座開設による京都全体の教職課程の充実	京都教育大学と連携し、キャンパスプラザ京都において、社会人を含めた学生が受講しやすい時間帯(日曜)における教員免許の資格取得に必要な単位互換科目を開講。	令和2年度から新規開設の予定だった本講座について、令和2年度はコロナの影響により開講中止となったが、令和3年度は教職課程の日曜講座として、4科目が提供・開講された。	教職課程の日曜講座として、2科目を開講する。	
大学と連携した学生の安心・安全の確保 【(2)-③(P3)】	大学間連携による職域接種	「大学のまち京都・学生のまち京都」のすべての大学が早期に対面授業を再開して学びを推し進めることができるよう、新型コロナワクチンの職域接種の機会を提供。	京都市、大学コンソーシアム京都、京都府との連携で、京都大学等の協力の下で、新型コロナワクチン職域接種の仕組みを構築した。府内13大学、約3,100人の学生・教職員等の2回目の接種が令和3年9月に終了。	引き続き、状況を注視しながら、学生の安心・安全な学生生活の確保に努めるとともに、充実した学生生活を送れるよう、必要な取組を進めていく。	

柱2 大学・学生の国際化の促進

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
戦略的な留学生誘致の展開 【(1)-①(P8)】	全国から京都へ！ 留学生の戦略的誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏向け京都進学説明会をオンライン開催(留学生計719名)した。 ・留学生の京都学び体験ツアーはコロナ禍により見送り、オンライン文化体験+先輩留学生座談会を3種実施(留学生計23名)した。 ・首都圏の日本語学校の教職員向け京都学び交流ツアーはオンライン交流会として開催(首都圏:9校, 京都側:13校)した。 ・誘致活動のためのオンラインコンテンツ強化のため「留学生ショートムービーコンテスト2021」を開催(応募作品数:14)した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京を対象とした開催を中心に定着を図りつつ、他の地域(福岡を想定)にも働きかけを行う。 ・京都進学説明会についてはオンラインを基本とし、留学生のツアーについては状況を見極めながら対面実施(難しい場合はオンライン対応等)できるよう取組を進める。教職員同士の交流機会創出にも引き続き取り組む。 ・留学生ショートムービーコンテストは周期事業に切り替え、別企画を検討実施する。 	
戦略的な留学生誘致の展開 【(1)-①(P10)】	ウクライナ・キエフ、京都市民ぐるみでの受入支援	京都市の姉妹都市であるキエフ市をはじめウクライナから避難された方々を、温かく受け入れ、支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市、京都市国際交流協会、京都キエフ交流の会が事務局となり、留学生スタディネットワーク、大学コンソーシアム京都など、幅広い団体等が力を合わせ、「ウクライナ・キエフ京都市民ぐるみ受入支援ネットワーク」を発足し、「寄付された方のワンストップ窓口の設置」、「住居や物資、サービス等の提供の受付、集約、マッチング」などを実施。 ・大学コンソーシアム京都、京都市、京都府の連名で、ウクライナ情勢に関する共同メッセージを発出。 	引き続き、国の受入れ支援策等を見極めつつ、キエフ市をはじめウクライナから避難された方々の、個々の状況に応じて、寄り添った支援を行っていく。	
留学生の受入に係る大学の負担軽減への支援 【(2)-①(P11)】	京都で学ぶ留学生の受入環境支援・体験交流促進事業	入学直後の留学生に行政手続きや生活ルールに係る情報提供等を行う「ウェルカム・パッケージ」、京都市の文化施設の見学・体験等の機会を提供する「留学生優待プログラム」を実施。加えて、R4年度からは新たに京都で学ぶ多様な学生が、京都ならではの文化芸術や伝統産業に触れる「参加体験型プログラム」を本格実施。	新型コロナウイルス感染症の影響により各大学等がガイダンスを実施しなかったため、対象となる大学等に対し、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に係る情報を含む各種資料をデータで提供した。	春入学・秋入学の時期に合わせて電子データも活用しながらウェルカム・パッケージを実施	★
日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実 【(4)-①(P18)】	「京(みやこ)グローバル大学」促進事業	留学生誘致をはじめ、交換留学にもつながる市内大学と海外大学との連携など、大学及び学生の国際化に向けた取組を点ではなく面として支援を広げていくことを目的に、留学生増につながる取組を行う大学を支援。	国際化に係る新たな取組を進めるR2年度に認定した7大学(池坊短期大学、大谷大学、京都市立芸術大学、京都女子大学、京都精華大学、京都ノートルダム女子大学、佛教大学)を支援。	引き続き、国際化に資する取組を行う認定7大学を支援。	

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
<p>学生が主体となって運営している活動の充実に向けた支援【(1)-①(P20)】</p>	<p>京都学生祭典</p>	<p>京都四大祭りを目指す京都学生祭典において、学生の成長と京都のまちの活性化の双方につながるものとなるよう支援。また、低年次生から地域等と関わる機会の拡充による学生の更なる成長を後押し。</p>	<p>令和3年10月10日に平安神宮前・岡崎プロムナードから無観客でのステージ企画をライブ配信した。岡崎グラウンドにて来場型企画も行い、オンラインと現地開催のハイブリッド形式で開催した。 【実績値(本祭当日)】 YouTube視聴回数:12,926回,公式HPアクセス数:30,738回,参加型企画来場者数:265人</p>	<p>ここ2年、新歓活動が制限され新規実行委員数がコロナ禍の年度から大幅に減少していることから、まずは実行委員数の確保に向けてサポートする。 本祭は節目となる第20回を迎え、対面での開催を第一に準備を進める。コロナ禍前の本祭を経験した実行委員がいない中、密にコミュニケーションをとりながら活動を支援する。</p>	
<p>学生Place+(ぶらす)の更なる活用促進【(1)-②(P21)】</p>	<p>学生Place+(輝く学生応援プロジェクト)</p>	<p>キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対して、活動場所の提供や専門コーディネーターによる助言・指導等を通じた支援を実施。</p>	<p>・キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施している。 (学生Place+来場者数(12月末現在):10,162名) ・コロナ禍で活動が制限される中、京都のまちで主体的に活動している学生団体を後押しする機会として「輝く学生応援アワード」を実施した。13団体が応募し、5団体が受賞した。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視しながら、引き続き、学生が大学の枠を超えて京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施する。</p>	
<p>ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設【(1)-④(P21)】</p>	<p>ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設</p>	<p>京都市のふるさと納税に、京都学生祭典をはじめとした学生さんの挑戦を応援する寄付メニュー及び大学・学生と地域の連携強化等を図るための寄付メニューを開設し、「大学のまち京都・学生のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たっての財源確保を促進。</p>	<p>・京都市のふるさと納税制度における「京都学生祭典をはじめとした学生さんの挑戦を応援する寄付メニュー」において、寄付を募るとともに、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信に努めた。 ・大学との連携協定に基づき、大学・学生と地域の連携強化を図るため、各大学と協働する新たな応援メニューを開設し、各大学において、卒業生等を対象に、広く寄付を呼び掛けていただいた。</p>	<p>引き続き、同メニューへの寄附の促進を図り、京都の学生を応援しようというファンを広く全国から獲得するとともに、各大学において実施する地域の連携強化等に関する事業の後押しを行い、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上につなげていく。 【大学・学生と地域の連携強化等に関する協定大学】 R3:3大学→R4:24大学・短期大学</p>	<p>★</p>
<p>学生が京都の文化や魅力に触れる機会の拡充【(4)-①(P26)】</p>	<p>学生向けアプリ KYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用</p>	<p>京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。</p>	<p>・ダウンロード数:19,901DL(2月末時点) ・ダウンロード数の増加に向けて、SNS等を活用した広報を実施。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種に関する情報等を学生へ発信した。 ・ニュース配信にて、オンラインイベントを積極的に配信した。 ・効果的な利用に向けてレイアウトの改善を図った。 ・安定的な運営に向けて、企業からの協賛を得た。(1件)</p>	<p>より多くの学生にアプリを利用してもらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。 また、引き続きアプリを活用して新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種の情報等を学生へ発信していく。</p>	

柱4 学生の進路・社会進出の支援

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
地域企業と連携した 担い手育成 【(1)-①(P29)】	地域企業と連携した 次代の京都の 担い手育成事業	大学や国籍の垣根を超えた多様な学生・留学生 がチームで、京都企業と連携して課題に取り 組むPBLプログラムを実施。	留学生を含む学生のチームが、京都企業 と連携したPBLにより、企業の提示する課 題の解決や学生から企業への提案などに オンラインも活用しながら取り組んだ。 (プロジェクト数:10, 参加者:11大学・64名 (うち留学生13名)(2月末時点)	「留学生就職サポート事業」と「京都企業と 連携した次代の京都を担う人財(担い手) の育成事業」を統合し、従来のPBLに加 え、留学生を含む学生が就職活動前の早 い段階から、京都企業を出会い・知るきつ かけづくりの場を新たに設ける。	★
地域企業の魅力発 信の強化 【(1)-②(P29)】	京都中小企業担 い手確保・定着支 援事業	京都企業・就業情報データベースを作成し、 ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用して情 報発信を行うことで、学生をはじめとする求職 者等に京都の中小企業の魅力を広く周知。	ウェブサイト「京のまち企業訪問」の掲載企 業(掲載企業数:3,930社) ※令和3年12 月末時点	令和4年度は、ウィズコロナにおける地域 企業の採用活動のオンライン化への対応 を一層支援するため、新たに新卒採用や インターンシップ情報などを発信できるよ うにするなどの取組を行う。	
地域企業の魅力発 信の強化 【(1)-②(P30)】	インターンシップ・ プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、 大学における学びの一環として位置づけ、実 体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚 起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性 のある人材育成」を目的とした教育プログラム を実施。	・「ビジネス・パブリックコース」では実習の 事前と事後に実施する講義をオンラインに て実施した。「長期プロジェクトコース」では 対面での実施を追求しつつも状況に応じて オンラインと併用して実施した。 ・出願、面接、レポート等の提出はWebに て行った。 ・低年次生向けの広報を実施した。	・引き続き、講義は令和3年度同様にオン ラインを取り入れて進める。あわせて、出 願、面接、レポート等の提出についても Webにて行う。 ・「長期プロジェクトコース」では現在の ニーズを踏まえたプロジェクト形成および チーム形成に重点を置いたプログラムへ 発展させるための検討を行う。	
地域企業と学生の出 会いの場づくり 【(1)-③(P31)】	The Future of KYOTO AWARD	学生の市内定着、市内企業就職に向け、企 業と学生を繋ぐ取組として、「The Future of KYOTO AWARD」を創設し、民間企業と連携 して学生主体の地域課題解決の取組を実施 する。 本取組は、学生自らが地域課題を発掘し、解 決策の検討・提案、実践までを行う。賛同企業 には、提案採択の際の審査・表彰、また、実践 の際には、助言等の御協力をいただき、学生 の成長を一緒に応援いただく。	学生が地域や企業を知り、京都と関わりを 持つことで、学生の市内への定着、京都 の未来の担い手育成へつなげることを目 的として、学生が主体となり、地域の課題 解決に取り組む「The Future of KYOTO AWARD」を創設し、一緒に学生の成長を 応援していただける企業を募集。	SDGsの理念のもと、地域課題の解決や若 者等の学びと成長、地域社会の活性化な どを進めることを目的に連携協定を締結し ている、京都銀行、京都信用金庫、京都 中央信用金庫及び日本たばこ産業の4社 が本市とともに当初の賛同企業として参画 しており、引き続き、賛同企業を募りなが ら、学生による地域の課題解決の取組を 進めることで、学生を応援していく。	★

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
リカレント教育(職業人・社会人向けの教育プログラム)等の実施・充実 【(1)-①(P33)】	リカレント教育の推進支援, 実施に向けた検討	各大学等が実施するプログラムを共有したうえで, リカレント教育の推進に向けた支援策を検討・実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・「大学リカレント教育リレー講座」として6大学6講座を主にオンラインで実施し, 合計148名の受講があった。 ・各大学のリカレント教育への支援策を, 上記リレー講座の実施から広報ポータルサイト運営へと発展させることについて検討した。 ・大学コンソーシアム京都が実施するリカレントプログラムについて検討を重ね, 令和4年度からの2プログラム開講を決定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学のリカレント教育情報を網羅できるポータルサイト(あるいはそれに準ずるもの)を導入し, 運営を開始する。 ・大学コンソーシアム京都主催のリカレントプログラム「データサイエンス講座」「現代の教養講座」を開講する。 ・令和5年度にさらに1プログラム開講するための検討を行う。 	★
大学と地域の連携強化 【(4)-①(38)】	「学まち連携大学」促進事業	大学等の教育・研究成果の蓄積や学生の活力を地域の課題解決や活性化につなげるとともに, 地域社会との関わりの中で得られる学生の学びと成長の機会を創出する取組を, 大学等の組織的な取組として定着させ, 更に充実・発展させることを目的に, 京都市内で地域と連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発・実施又は充実・発展に取り組む大学等を支援。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度からの採択校を引き続き支援した。 スタートアップ型:2件(京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部, 花園大学) 発展型:2件(京都橘大学, 龍谷大学) ・採択校の取組を広く発信し, 加盟校の地域連携活動の活性化につなげるため, 大学・地域シンポジウムを開催した。(令和3年11月) 	各大学において, 今後の取組として, 地域連携に関する正課科目の設置や教養教育における全学対象の体系的な教育プログラムの構築などを予定しており, 引き続き, 各大学における地域連携の取組を後押しすることで, 地域連携に取り組む大学の裾野の拡大を図っていく。	
学生の力をいかした住民自治の活性化 【(4)-③(P39)】	大学生の力を生かした田中宮市営住宅における住民自治活性化	田中宮市営住宅(伏見区)に学生が入居し, 自治会活動に参加することで, 地域コミュニティの活性化を促進。実施に当たっては, 大学, 当該市営住宅自治会及び本市が連携協定を締結し, 事業を推進。	<ul style="list-style-type: none"> ・7名が入居し, 自治会役員として自治会活動に参加 ・自治会行事については, コロナ禍につき縮小 ・関係者協議については, 書面回議を実施 ・ゲストを招いた外部向けのオンラインイベントを3回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き7名が自治会活動に参加 ・関係者協議については, 情勢を見極めながら, 対面, オンラインを中心に行う。 	

柱6 国内外への魅力発信の強化

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
学生による京都で学ぶ魅力の発信 【(1)-②(P43)】	京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	<ul style="list-style-type: none"> ウェブサイト「コトカレ」の他、SNS (Twitter, Instagramなど)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力を発信した。 よしもと祇園花月との連携企画等を検討した。 	引き続き、学生目線による大学生生活の魅力発信を充実させるとともに、企業等と協働した取組を展開する。	
留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信 【(2)-①(44)】	留学生PRチーム	京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、出身国等における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報について現地向けに発信。	<ul style="list-style-type: none"> 現役留学生による京都の留学情報を現地に発信するPRチームの運営(7箇国・地域, 9名) 学生アルバイトの感染予防のため在宅勤務も活用 	<ul style="list-style-type: none"> 現役留学生のPRチームによる、日本留学の情報発信 誘致や交流関係事業において体験談・バディ・翻訳等の取組を実施 引き続き状況に応じて在宅勤務を活用 	
留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信 【(2)-①(P44)】	「京都PR学生大使」制度	京都ファンや京都への留学生数の増加を目的として、「京都PR学生大使」を任命し、日本人学生の海外留学への関心を高めるとともに、留学先でのコミュニケーションの不安を軽減することによる海外留学促進と、学生が留学先などで京都の魅力を英語で的確に発信。	<ul style="list-style-type: none"> 大学コンソーシアム京都主催の「英語で京都をプレゼンテーション講座」を修了した学生のうち、希望者を「京都PR学生大使」に任命 任命者数 12名 国内外において京都の魅力を発信 	引き続き、京都PR学生大使から国内外に向けて京都の魅力を発信する。	
大学・学生向け広報の充実 【(3)-③(P45)】	学生向けアプリ KYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用(再掲)	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	<ul style="list-style-type: none"> ダウンロード数:19,901DL(2月末時点) ダウンロード数の増加に向けて、SNS等を活用した広報を実施。 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種に関する情報等を学生へ発信した。 ニュース配信にて、オンラインイベントを積極的に配信した。 効果的な利用に向けてレイアウトの改善を図った。 安定的な運営に向けて、企業からの協賛を得た。(1件) 	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。また、引き続きアプリを活用して新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種の情報等を学生へ発信していく。	

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023(愛称:京からはばたく、学びプラン)」の進捗状況

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2記載項目
(1) 大学間連携による学びの充実	① 京都ならではのフィールドにおける新たな単位互換科目の開設	新規	京都ミュージアムPBL科目	京都ならではのフィールドにおける新たなアクティブラーニングによる単位互換科目として、令和2年度開設。文化都市京都の利点を活かし、京都に集まる多様な博物館(ミュージアム)をフィールドに京都の持つ魅力的な文化を学びながら、そこにある様々な課題に取り組むことでチームワークを活かし、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる人材を育成。	R2	「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4科目を開講し、全科目合計で78名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。	<ul style="list-style-type: none"> 「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4科目を開講する。 「京都世界遺産PBL科目」は5大学・6科目を開講する。 いずれもオンラインと対面での活動を併用して実施する。 受講者確保に向け積極的に広報活動を行うとともに、着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、相互の積極的なサポートを実施する。 	大学コンソーシアム京都	★
			京都世界遺産PBL科目	京都の世界遺産をフィールドにPBLを展開する科目を実施。	H27	「京都世界遺産PBL科目」は4大学・5科目を開講した。全科目合計で93名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。		大学コンソーシアム京都	★
	② 単位互換制度におけるグローバル科目の開設	新規	グローバル科目開設に向けた検討	大学の国際化に即したグローバル科目開設に向けた検討を実施。	R1	世界遺産PBL科目やミュージアムPBL科目において留学生の受講を促すことを試みたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響が不透明であったため積極的な促進を控えた。	世界遺産PBL科目やミュージアムPBL科目において留学生の受講を促し、教育効果を検証する。	大学コンソーシアム京都	
	③ 新たなe-ラーニングの仕組みの研究	新規	新たなe-ラーニングの仕組みづくりの検討	新たなe-ラーニング等、ICTの活用について検討を実施。	R1	オンライン科目およびキャンパスプラザ・オンライン併用科目あわせて48科目提供され、延べ384名が受講した。オンライン授業を受講する他大学生へのフォローとしてシラバスに必要情報を明記するよう全大学へ依頼した。	引き続き運用する「プラザ・オンライン科目」補助金を軸にオンライン科目の提供を促し、広報媒体にて重点的に訴求することで、さらなる出願を促進する。	大学コンソーシアム京都	
④ 大学間連携の取組を活用した、教員免許等資格取得に必要な科目の履修支援	新規	日曜講座開設による京都全体の教職課程の充実	京都教育大学と連携し、キャンパスプラザ京都において、社会人を含めた学生が受講しやすい時間帯(日曜)における教員免許の資格取得に必要な単位互換科目を開講。	R2	令和2年度から新規開設の予定だった本講座について、令和2年度はコロナの影響により開講中止となったが、令和3年度は教職課程の日曜講座として、4科目が提供・開講された。	教職課程の日曜講座として、2科目を開講する。	大学コンソーシアム京都	★	

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(1)	⑤ 大学間連携による学びの充実 京都市大学のまち交流センター(愛称:キャンパスプラザ京都)の利用促進	継続	大学のまち交流センター管理運営	大学における学術研究の成果, その他の知的資産を活用することにより, 豊かな地域社会の形成に資するため, 大学相互の間及び大学と産業界, 地域社会等との間の連携・交流を促進する活動等に活用。	H12	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な点検及び随時の適切な対応により, 快適な利用環境を維持し, 利用者からの要望等に迅速かつ細やかに対応した。 大型空調設備の更新工事を実施し, 快適な利用環境の安定的な提供を促進した。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するために, 施設内の消毒, 利用者への注意喚起等必要な措置を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理委託先との連携を十分図り, かつ施設設備の更新と改修を適切に行うことで, 快適な利用環境を維持し, 施設の稼働率向上に繋げる。 引き続き新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し, 感染拡大防止のための必要な措置を講じる。 	京都市 大学コンソーシアム京都	
(2)	① 「安心して安全に学べる京都」の充実 障害のある学生が学びやすい環境づくり	充実	ノートテイク養成講座・パソコン(PC)テイク養成講座	テイク(支援者)とその利用者の体験談やノートテイク・PCテイクの基本理解の講義, 実践を通して, 大学教職員・学生に情報保障に関するスタートアップの機会を提供。	H16	令和3年8月24日にオンラインにて開催した。(参加者数22名) 昨年同様, オンラインを用いて遠隔で文字情報保障を行う手法を学ぶ講座を実施した。	学生の参加が一桁台に留まっていることを鑑み, ノートテイク・PCテイク養成講座に代わる障がい学生への理解や様々なツールを用いた障がい学生支援の手法を学ぶような講座を検討する。	大学コンソーシアム京都	
			関西障害学生支援担当者懇談会(KSSK)	関西にある大学の障害学生支援に携わる実務担当者の情報交換とネットワーク構築を目的に開催。	H20	令和3年5月に障害者差別解消法の改正案が成立したことにより, 今後の想定される課題とその解決方策等について情報交換を行った。 令和3年9月2日に第27回KSSKをオンラインにて開催した。(参加者数54名)。 令和4年3月2日に第28回KSSKをオンラインにて開催した。(参加者数48名)。 コロナ禍における支援の在り方について, 振り返るとともにこれからの支援の在り方について情報交換を行った。	参加者からのアンケート結果等も参考に, ニーズに合ったテーマを引き続き実施する。開催形態は, 参加者同士の交流が求められていることから, 社会情勢を見極めつつ対面での開催を検討する。	大学コンソーシアム京都	
			みやこユニバーサルデザインアドバイザーの派遣	ユニバーサルデザインの考え方を採り入れ, 実践しようとする各種団体, 学校, 企業等に対し, 必要な助言や支援を行うことにより, 様々な分野や地域における主体的なユニバーサルデザインの取組を促進。	H18	派遣回数: 3回 ・七条第三小学校 ・西京高等学校附属中学校 ・京都美術工芸大学	引き続き, 各種団体, 学校, 企業等から申請があった際に, 適任となる講師を派遣し, ユニバーサルデザインの取組を促進する。	京都市	

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(2) 「安心して安全に学べる京都」の充実	① 障害のある学生が学びやすい環境づくり	充実	移動支援事業	単独で外出が困難な障害のある方への移動を支援(大学等への通学の支援を含む)。	S51	移動支援事業 実利用者数 3,595人(大学等への通学の支援を行っている者を含む)(令和3年4～12月請求受付分) (コロナ感染防止のため外出自粛をせざるを得ない場合、居宅において飲食や安全確保など、外出時と同様の支援を行った場合は、移動支援を実施したものと取り扱う)	引き続き、外出時における移動中の支援等を行うことにより、障害のある方の自立と社会参加を促進する。	京都市	
	② 高校教員を対象とした障害のある学生の受入れに関する懇談会の開催	新規	大学における障害学生支援に関する高校教員との懇談会	障害学生支援に関して高等学校や特別支援学校と大学がつながりをもつ機会が少ないという現状に鑑み、高等学校等の教員と大学において障がい学生支援に携わる教職員の情報交換、交流を目的とした懇談会を開催。	R1	令和3年12月2日にオンラインにて開催した。(参加者数:大学関係者11名、高校関係者14名)。高校のインターネット環境の事情により、オンライン参加が難しい場合には、キャンパスプラザ京都で対応した。	引き続き、コロナ禍を念頭にオンライン等の開催形態も検討し、実施する。また、開催時期の変更や開催広報にも力を入れて取り組み、参加者の拡大を図る。	大学コンソーシアム京都	
	③ 大学と連携した学生の安心・安全の確保	充実	大学間連携による職域接種	「大学のまち京都・学生のまち京都」のすべての大学が早期に対面授業を再開して学びを推し進めることができるよう、新型コロナワクチンの職域接種の機会を提供。	R3	京都市、大学コンソーシアム京都、京都府との連携で、京都大学等の協力の下で、新型コロナワクチン職域接種の仕組みを構築した。 府内13大学、約3,100人の学生・教職員等の2回目の接種が令和3年9月に終了。	引き続き、状況を注視しながら、学生の安心・安全な学生生活の確保に努めるとともに、充実した学生生活を送れるよう、必要な取組を進めていく。	京都市 大学コンソーシアム京都	★
			大学における消費生活講座の開講	大学生が契約トラブルなどの消費者問題についての現状認識を高め、その解決のために必要な法的知識を学ぶとともに、自らのライフスタイルについて考えを深めることを目的として、消費者問題に関する講座を寄付講座として開設。	H22	同志社大学において、春学期毎週月曜日(令和3年4月12日～令和3年7月26日)、秋学期毎週月曜日(令和3年9月27日～令和4年1月24日)に開講	消費者団体等と一層連携し、大学における消費生活講座を複数の大学において開設するなど、大学生など若年者への消費者教育を推進し、消費者の日々の意思決定や行動が持続可能な社会を形成するうえで大きな役割を果たすことを認識し、行動しようとする意識を持つ社会に貢献する消費者の育成に取り組む。	京都市	

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(2) 「安心して安全に学べる京都」の充実	③ 大学と連携した学生の安心・安全の確保	充実	世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動	市民、京都市、京都府警察等との連携により展開している「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」について、地域の特性、課題等に応じた行政区単位の犯罪防止等の取組をすべての行政区で展開するなど安心・安全なまちづくりのための取組を推進。	H26	京都女子大学と連携し作成した盗撮・痴漢被害防止に係る啓発ポスターを駅構内等へ掲示した。	引き続き、大学生を中心に被害が多発している犯罪に対する啓発を行う。	京都市	
	④ 学生が安心・安全に学ぶための相談体制等の充実	充実	学生向けアプリ KYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・ダウンロード数:19,901 DL ※2月末時点 ・ダウンロード数の増加に向けて、SNS等を活用した広報を実施。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種に関する情報等を学生へ発信した。 ・ニュース配信にて、オンラインイベントを積極的に配信した。 ・効果的な利用に向けてレイアウトの改善を図った。 ・安定的な運営に向けて、企業からの協賛を得た。(1件) 	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。また、引き続きアプリを活用して新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種の情報等を学生へ発信していく。	京都市 大学コンソーシアム京都	
			新入生ガイダンス及び大学内等における街頭啓発活動	大学生に対し、京都市内における居酒屋等の客引き行為や悪質スカウトによる犯罪被害等の現状を説明し、「客引きのアルバイトをしない」、「客引きを利用しない」、「スカウトについていけない」、「ブラックバイト相談窓口」等の啓発を実施。	H27	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、ガイダンスや大学周辺での啓発は実施せず ・重点対策大学へのポスターの掲示依頼 ・「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ KYO-DENT(キョーデント)において「客引きをしない、ついていけない。」といった記事の掲載による啓発 ・大学生(京都女子大学)のデザインによる「客引きのアルバイトをしない」「客引きについて行かない」両面からの啓発物の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学コンソーシアム京都加盟校へのポスター掲示依頼 ・「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ KYO-DENT(キョーデント)における啓発 ・各種ガイダンスの実施状況を見て、可能であればガイダンスでの啓発を実施 ・R4年度も大学生と共同での啓発を継続予定 	京都市	
犯罪被害者支援に係る大学連携講義等の実施	犯罪被害者に関する大学講義を(公財)大学コンソーシアム京都の単位互換科目とするなど、啓発や人材育成を実施。	H23	佛教大学で「司法・犯罪心理学」(後期)、龍谷大学では「刑事政策」(後期)のなかで犯罪被害者に関する講義を実施。	令和3年度同様に、(公財)大学コンソーシアム京都の単位互換科目となる講義等を実施予定。	京都市				

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(2) 「安心して安全に学べる京都」の充実	④ 学生が安心・安全に学ぶための相談体制等の充実	充実	学生向け消費者被害に関する情報交換メーリングリストを活用した情報発信等	消費者問題に関する注意喚起を促す情報誌「京(みやこ)・くらしの安心安全情報」を大学生向けアプリ「KYO-DENT」へ掲載している。 また、消費者被害の未然防止について賛同いただいている京都府内の大学(10大学)の学生課及び京都市・京都府の消費生活センター、京都弁護士会において、学生向け消費者被害に関する情報交換メーリングリストを作成し、適時、消費者被害情報等を発信するなど、消費者被害の未然防止に努めている。	H30	メーリングリストについては、消費者被害に遭った方の相談先である専用ダイヤル(188)の案内と当センターに寄せられたマルチ商法に関する相談情報を発信した。 また、8月にweb会議システムを用いて、意見交換会を行い、府市に寄せられている消費生活相談に関する注意喚起を行った。	メーリングリストについては、4年度も引き続き大学学生課及び京都府、京都弁護士会と連携し、消費者被害の未然防止に努めていく。	京都市	
			京都中小企業担い手確保・定着支援事業	ワークショップ形式で労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発等を目的としたセミナーを開催。 また、ブラックバイトの根絶に向けて、「京都市わかもの就職支援センター」に相談窓口を設置し、アルバイトに関するあらゆるトラブルについて対応。	H28	・「働くルールを知るセミナー」の開催(回数:1回、参加者:66名、オンラインで開催) ・「ブラックバイト相談窓口」での対応(相談件数:2件) ※令和3年12月末時点	引き続き、労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発や、ブラックバイトの根絶に向け、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、状況に応じオンラインでも実施する。	京都市	
			自転車のルール・マナー向上に関する取組	大学生の自転車事故を防止するために、大学生に対して自転車のルール・マナーの向上を図るための啓発等を実施。	H30	自転車ルール・マナー冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」の配布等を実施 WEB対応を希望する大学へは、同冊子のデータを提供	引き続き、大学生に対する啓発等を実施する予定	京都市	
	⑤ 災害時における学生の安全の確保	継続	災害時における学生の安全の確保	大規模災害時の学生等を含む市民の安全を確保するため、京都市地域防災計画に基づき、地域における防災訓練の実施や、各大学・京都市大学のまち交流センター(キャンパスプラザ京都)における大規模災害に備えた安全対策や非常用物資の備蓄等を推進。	-	各区等において、避難所運営訓練等の防災訓練を実施。	引き続き、各区等における防災訓練を行う。	京都市	

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(3) 大学経営・運営の支援	① FD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)事業の充実	充実	大学教職員の能力開発と交流の充実	FD事業では、大学の取組等の情報発信や参加者間交流を目的とするFDフォーラム、階層別分野別研修プログラムとしてのテーマ別研修、FDに関するテーマを設定し工夫や悩みを共有する京都FD交流会を実施。SD事業では、国の文教政策や高等教育機関を取り巻く環境の変化を踏まえたテーマで実施するSDフォーラム、次代の大学運営を担う世代が対象のSDゼミナール、若手から中堅職員対象の能力・スキル向上型研修としてSD共同研修プログラムを実施。これらの取組を通じて、大学教職員の能力開発と交流の場を提供。	H7	新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況を鑑み、大部分の事業をオンライン開催として実施した。 ◆FD事業 ・第27回FDフォーラム(オンライン開催 2/19・2/20・2/26・2/27) ・テーマ別研修プログラム(オンライン開催 全6回6テーマ) ・京都FD交流会(オンライン開催 全3回3テーマ) ◆SD事業 ・第19回SDフォーラム(オンライン開催(基調講演、2分科会を開催、情報交換会は中止) 10/31) ・SDゼミナール(開催中止) ・SD共同研修プログラム(オンライン開催(全8回8テーマ うち、1回1テーマは対面開催))	引き続きFD及びSD事業を行う。実施にあたっては、国の文教政策や高等教育機関を取り巻く環境と変化などの状況を踏まえつつ、参加者アンケートで寄せられた意見やニーズを分析しながら、より充実した企画を展開する。また、実施形態については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況にもよるが、現時点ではオンライン開催を基本軸とし、可能であれば対面もしくはハイブリッド形式での開催を考える。	大学コンソーシアム京都	
	② 中小規模大学をはじめとする大学の特色化・機能強化の支援	新規	大学の特色化・機能強化の支援	中小規模大学をはじめとする多様な大学の個性をいかした特色化・機能強化を支援するため、各大学の現状やニーズ把握等を通じて、共同化が可能な取組・事業に関する研究や大学運営に関するノウハウを共有する仕組みづくりを推進。	R1	・新型コロナウイルスワクチンの職域接種を単独で実施できない中小規模大学を支援するため、大学間連携によるワクチン接種のスキームを構築し、実施した。	・引続き加盟校のニーズ把握に努め、加盟校共通の課題解決に向けて、時宜にかなった取組を迅速に行う。	大学コンソーシアム京都	
	③ 大学コンソーシアム京都における情報収集・発信機能の強化	充実	高等教育の動向調査	国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査し、大学へ情報提供。	-	・私立大学等改革総合事業について、国からの情報を集約し、大学へ共有した。 ・文科省職員等による高等教育の動向について、大学へ情報提供する場を設けた。	国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査する。	大学コンソーシアム京都	
	④ 大学コンソーシアム京都加盟校への高等教育に関する情報提供の充実	充実	高等教育の動向調査、財団事業の影響分析	国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査し、大学へ情報提供。また、高等教育環境が著しく変化中、指定調査課題等を活用し、財団事業の調査・研究を進め、国の動向等と併せて調査分析し、施策に反映。	-	指定調査課題の調査・研究をとおして高等教育の動向調査等を実施。研究成果は財団の施策に反映するとともに、大学へも情報提供。	国等の動向への対応も据えて、指定調査課題を設定し、調査・研究を進める。	大学コンソーシアム京都	

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(3) 大学経営・運営の支援	⑤ 大学への寄付の増進	継続	大学への寄付の増進	平成20年度税制改正に基づき、国立大学法人、公立大学法人、学校法人等に対する寄付金を京都市の個人市民税の寄付金控除の対象となる寄付金として指定(※)する仕組みを導入することにより、京都の大学に対する寄付の増進を図り、民間からの大学支援を促進。 ※ 寄付金を受領する団体からの申請に基づき、所得税の寄付金控除の対象となる寄付金のうち、市民の福祉の増進に寄与する寄付金であると認められるものを指定。	H21	現在、22の学校法人に対する寄付金を京都市の個人市民税の寄付金控除の対象となる寄付金として指定している。制度の周知に関しては、ホームページで行っている。	引き続き、制度の周知をホームページ内で行っていく。	京都市	
			ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	京都市のふるさと納税に、「京都学生祭典をはじめとした学生の挑戦を応援する寄付メニュー」及び「大学・学生と地域の連携強化等」を図るための寄付メニューを開設し、「大学のまち京都・学生のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たったの財源確保を促進。	R1	・京都市のふるさと納税制度における「京都学生祭典をはじめとした学生の挑戦を応援する寄付メニュー」において、寄付を募るとともに、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信に努めた。 ・大学との連携協定に基づき、大学・学生と地域の連携強化を図るため、各大学と協働する新たな応援メニューを開設し、各大学において、卒業生等を対象に、広く寄付を呼び掛けていただいた。	引き続き、同メニューへの寄附の促進を図り、京都の学生を応援しようというファンを広く全国から獲得するとともに、各大学において実施する地域の連携強化等に関する事業の後押しを行い、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上につなげていく。 【大学・学生と地域の連携強化等に関する協定大学】 R3:3大学→R4:24大学・短期大学	京都市	
(4) 大学施設整備の支援・誘導	① 大学施設整備の支援・誘導	充実	大学施設整備支援事業	大学からの施設整備等についての相談を受け、大学が行う施設整備に技術的な助言等を行うとともに、施設整備に必要な各種手続き等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を実施。 また、都市計画マスタープランや持続可能な都市構築プランにおいて、大学の機能充実を明確に位置付け、施設整備の更なる支援を実施。	H7	各大学の相談に応じて大学が行う施設整備に技術的な助言等を行うとともに、施設整備に必要な各種手続き等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を行った。	引き続き、各大学の相談に応じて施設整備の支援・誘導を行う。	京都市	
						「市街化調整区域における地区計画運用基準」について、「大学施設整備」を類型として位置付ける改定を実施(令和3年5月)	施設整備に必要な各種手続等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を行う。	京都市	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(1) 留学生の誘致促進	① 戦略的な留学生誘致の展開 (留学生誘致戦略の改善) (効果的なPRの実施, 体制の充実)	充実	全国から京都へ！ 留学生の戦略的誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏向け京都進学説明会をオンライン開催(留学生計719名)した。 ・留学生の京都学び体験ツアーはコロナ禍により見送り、オンライン文化体験+先輩留学生座談会を3種実施(留学生計23名)した。 ・首都圏の日本語学校の教職員向け京都学び交流ツアーはオンライン交流会として開催(首都圏:9校, 京都側:13校)した。 ・誘致活動のためのオンラインコンテンツ強化のため「留学生ショートムービーコンテスト2021」を開催(応募作品数:14)した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京を対象とした開催を中心に定着を図りつつ、他の地域(福岡を想定)にも働きかけを行う。 ・京都進学説明会についてはオンラインを基本とし、留学生のツアーについては状況を見極めながら対面実施(難しい場合はオンライン対応等)できるよう取組を進める。教職員同士の交流機会創出にも引き続き取り組む。 ・留学生ショートムービーコンテストは周期事業に切り替え、別企画を検討実施する。 	京都市 大学コンソーシアム京都	★
			海外における京都留学フェア等の開催	京都の学校(大学・日本語学校・専修学校)と連携し、海外で京都に特化した留学フェアや現地の教育機関等を回る京都留学説明会の開催、日本学生支援機構「日本留学フェア(JASSOフェア)への参加による現地情勢や日本(京都)留学意向の把握、継続した京都の知名度アップなどを通じた、幅広い京都留学意欲の喚起を実施。	H27	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により渡航を伴う海外での誘致活動は見送り、海外エージェントや日本留学海外拠点連携推進事業の各拠点が実施するオンライン日本留学フェアに積極的に出展し、継続した留学先としての京都の知名度アップを図った。 (インドネシア、韓国、香港・マカオ・マレーシア・台湾、中国、英国、タイ、カンボジア、インド・スリランカ・バングラディシュをはじめとした南西アジア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの説明会、個別相談について出展可能なオンライン説明会があれば出展やプレゼン動画などの資料提供を行うことで、プロモーションの機会を確保する。 ・現地でのプロモーション(可能な場合)については、コロナ禍が長期に継続し各国・地域の留学事情が流動化しており、様々な形態のプロモーションが考えられる状況となっていることから、JASSOフェア等への出展によるプロモーション活動を基本としながら、今後の、現地でのより効果的なプロモーションを実施するため、地域や手法を絞り込む現地調査にも取り組む。 ・引き続き、海外における京都の知名度アップなどを通じた幅広い京都留学意欲の喚起を行う。 	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(1) 留学生の誘致促進	① 戦略的な留学生誘致の展開 (留学生誘致戦略の改善) (効果的なPRの実施, 体制の充実)	充実	国内外留学フェアへの京都ブース出展	例年開催されている日本学生支援機構の「日本留学フェア」等に京都ブースを出展し、留学コーディネータが同ブースにおいて大学・日本語学校、留学生支援施策など、京都の留学情報を包括的に発信するとともに、現地の教育機関や留学関連事業者に働きを実施。	H27	【オンラインフェア出展実績】 カンボジア(6月)…視聴者数(110名)※動画提供のみ 韓国(7月)…参加者数(説明会18名, 相談会18名) 中国(7月)…参加者数(瞬間最大視聴者数6,602名) インドネシア(8,9,3月)…参加者数(説明会73名, 相談会22名)※3月追加実施予定 中国江西省学校訪問(10月)…視聴者数(261名)※動画提供のみ 中国・香港・マカオ・マレーシア・台湾(11, 2月)…参加者数(説明会63名, 相談会8名) 英国(11月)…参加者数(説明会29名) タイ(2月)…参加者数(説明会148名, 相談会7名) インド・スリランカ・バングラデシシュをはじめとした南西アジア(11月)…視聴者数(145名)※動画提供のみ	・JASSOや海外エージェント等が実施する「日本留学フェア」等に京都ブースを出展し、京都の留学情報を包括的に発信する。 (オンライン又は渡航[可能な場合]) ・京都留学意向の把握、現地関係者との信頼関係の醸成・維持に努める。	京都市 大学コンソーシアム京都	
			総合ポータルサイトの運営	大学・日本語学校などの学校情報、住宅・就職を含む生活情報など、京都留学に関する総合ポータルサイトを設置・運営。	H27	・「STUDY KYOTO」アクセス件数(累計) 875,129件 ・特集記事の掲載数(累計) 104本 ・ニュースレター配信回数(累計) 29回/登録者数 4,586人 ※2月末時点	・留学検討層と在京留学生それぞれのニーズに合わせた情報発信を行うとともに、引き続き、留学検討層のニーズが高い加盟校奨学金情報や様々な話題をテーマとしたマガジンの充実を図る。 ・回遊性を高めたマガジンページを活用し、将来的な収益化を目指し実施している実証実験を踏まえたマガジン広告記事の本格稼働に向けて検討を進める。 ・ポータルサイトへの流入を促進するため、現役留学生や留学生OB・OGインタビューコンテンツの充実に取り組む。	京都市 大学コンソーシアム京都	
			留学生PRチーム	京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、出身国等における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報について現地向けに発信。	H27	・現役留学生による京都の留学情報を現地に発信するPRチームの運営(7箇国・地域, 9名)	・現役留学生のPRチームによる、日本留学の情報発信 ・誘致や交流関係事業において体験談・パティ・翻訳等の取組を実施	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(1) 留学生の誘致促進	① 戦略的な留学生誘致の展開 (留学生誘致戦略の改善) (効果的なPRの実施、体制の充実)	充実	市の友好交流都市(姉妹都市、パートナーシティ)や関係機関などとの連携による情報発信	京都で学ぶ留学生を誘致するため、本市友好交流都市(姉妹都市、パートナーシティ等)や(一財)自治体交流協会などと連携し、「大学のまち・学生のまち」としての魅力を発信。	H26	本市と姉妹都市(例:中国の西安市)やパートナーシティ(例:中国の青島市、韓国の晋州市)関係にある中国・韓国をはじめ、インドネシアなど、地理的にも日本に近く、留学生への関心が高い地域を中心に、海外向けの留学オンラインフェアに積極的に参加。	本市友好交流都市(姉妹都市、パートナーシティ等)等と連携し、「大学のまち・学生のまち」としての魅力オンラインも活用しながら発信	京都市	
			ウクライナ・キエフ、京都市民ぐるみでの受入支援	京都市の姉妹都市であるキエフ市をはじめウクライナから避難された方々を、温かく受け入れ、支援を行う。	R3	・京都市、京都市国際交流協会、京都キエフ交流の会が事務局となり、留学生スタディネットワーク、大学コンソーシアム京都など、幅広い団体等が力を合わせ、「ウクライナ・キエフ京都市民ぐるみ受入支援ネットワーク」を発足し、「寄付された方のワンストップ窓口の設置」、「住居や物資、サービス等の提供の受付、集約、マッチング」などを実施。 ・大学コンソーシアム京都、京都市、京都府の連名で、ウクライナ情勢に関する共同メッセージを发出。	引き続き、姉妹都市等を通じて、「大学のまち・学生のまち」の魅力を発信する。	京都市 大学コンソーシアム京都	★
			京都留学ガイドの活用	平成28年度に作成した「京都留学ガイド」について、留学フェアや学校訪問等の際に配布するほか、ウェブサイトにもPDF版を掲載。	H28	WEB(ポータルサイト)上で最新の学校情報データを提供し、京都留学環境のPRツールとして活用した。	引き続き、国の受入れ支援策等を見極めつつ、キエフ市をはじめウクライナから避難された方々の、個々の状況に応じて、寄り添った支援を行っていく。	京都市 大学コンソーシアム京都	
			海外教育旅行向け支援メニューの提供	海外から京都に教育旅行で訪れる教員・学生向けに、レクチャー・キャンバスツアー・学生交流機会の提供、文化体験プログラムの紹介などを行い、併せて京都留学に係るレクチャーを行うことにより、訪問者に対して留学先としての京都の魅力を紹介。	H29	新型コロナウイルス感染症拡大により、海外からの教員等の来訪がないため見送り	WEB(ポータルサイト)上で最新の学校情報データを提供し、京都留学環境のPRツールとして活用する。	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(1) 留学生の誘致促進	① 戦略的な留学生誘致の展開 (留学生誘致戦略の改善) (効果的なPRの実施、体制の充実)	充実	日本語学校における進学説明会の実施	京都の日本語学校で学ぶ留学生の地域内での進学を促進するため、日本語学校において大学や専門学校による学校説明や個別相談などを行う進学説明会を実施。また、大学、専門学校と日本語学校の連携を深めるため、そうした機会を利用して、大学、専門学校と日本語学校の担当者が情報を交換する機会を設定。	H30	京都の大学や専門学校を知る機会の創出として、オープンキャンパス参加促進企画「京都のオープンキャンパスに行こう！」を実施した。 ※対面OC・オンラインOC問わず応募可	域内進学が期待される京都の日本語学校で学ぶ留学生を増やすために、留学生スタディ京都ネットワーク加盟日本語学校の特徴や学び・体験できる領域、その他各種情報を積極的に発信する。	京都市 大学コンソーシアム京都	
	② 留学生スタディ京都ネットワークの機能の強化	充実	留学生スタディ京都ネットワーク	大学、日本語学校、専修学校、経済界、京都府とともに、海外から京都の大学等への留学をオール京都で促進するための組織を運営。	H27	海外からの京都留学をオール京都で促進するため、留学生スタディ京都ネットワークを平成27年5月に設立し、留学生誘致・支援に係る各種事業を実施。海外向けの京都留学PR活動や首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を対象とした誘致事業など、オンラインの手法を取り入れながら実施した。	オンラインでも効果が見込まれる取組については引き続きオンラインで実施するなど、国際的な人の往来状況をはじめとした社会情勢を踏まえながら、海外からの京都留学をオール京都で促進する各種取組を効果的・効率的に実施する。	京都市 大学コンソーシアム京都	
(2) 留学生の受入環境整備	① 留学生の受入に係る大学の負担軽減への支援	充実	京都で学ぶ留学生の受入環境支援・体験交流促進事業	入学直後の留学生に行政手続きや生活ルールに係る情報提供等を行う「ウェルカム・パッケージ」、京都市の文化施設の見学・体験等の機会を提供する「留学生優待プログラム」を実施。加えて、R4年度からは新たに京都で学ぶ多様な学生が、京都ならではの文化芸術や伝統産業に触れる「参加体験型プログラム」を本格実施。	H28	新型コロナウイルス感染症の影響により各大学等がガイダンスを実施しなかったため、対象となる大学等に対し、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に係る情報を含む各種資料をデータで提供した。	春入学・秋入学の時期に合わせて電子データも活用しながらウェルカム・パッケージを実施	京都市	★
	② 留学生や外国人研究者及びその家族の支援体制の強化	充実	外国人留学生の自転車ルール・マナーの向上に関する取組 職員向け教職員スキルアップ研修	日本の交通ルールに不慣れな外国人留学生に対し、事故を未然に防ぐため、日本の自転車ルール・マナーの向上を図るための啓発等を実施。 大学コンソーシアム京都加盟大学の職員を対象に、英語力並びに多文化理解向上のための研修を実施。	H30 H26	自転車ルール・マナー冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」(英語版、中国語版)を希望する大学に配布 WEB対応を希望する大学へは、同冊子のデータを提供 ・英語研修(5回)と多文化理解研修(2回:中国、イスラム教を中心とした東南アジア)を実施した。(全7回、延べ68名参加) ・すべてオンラインとし、曜日や1日当たりの時間を複数パターン設定するなど工夫しながら実施した。 ・満足度は全体平均で82.8%。	令和3年度と同様に実施予定 ・講座内容等に応じて対面・オンラインを組み合わせる。 ・受講者のアンケート結果等を踏まえつつ、より魅力ある研修づくりに取り組む。	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(2) 留学生の受入環境整備	② 留学生や外国人研究者及びその家族の支援体制の強化	充実	京都市生活ガイドのホームページでの公開	初めて京都で生活する外国籍市民等が安心して暮らせるように、生活上の留意点を説明した「京都市生活ガイド」(日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語)を(公財)京都市国際交流協会のホームページ上で公開。 ※事業開始当時は紙媒体で配布していたが、平成28年度から紙媒体を廃止し、ホームページ上での公開に一歩化。	H1	「京都市生活ガイド」を(公財)京都市国際交流協会のホームページ上で公開した。	引き続き「京都市生活ガイド」をホームページ上で公開する。 ※実態に応じ、スペイン語での公開を終了予定。	京都市	
			外国人留学生国民健康保険料補助事業	留学生の健康を守るため、市内在住の私費留学生を対象に、国民健康保険料の一部を補助(実施主体:(公財)京都市国際交流協会)。	H6	・申請があった市内在住の私費留学生を対象に、一人当たり月額700円を支給 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を踏まえ、申請期間の柔軟な対応等を実施 ・申請件数2,699件 ・支給件数2,433件 当初目的の外国人留学生の国保加入促進は、H24法改正(加入義務付け)で達成されている。法定減免制度の拡充(最大7割)なども踏まえ、令和4年度以降は事業廃止。	—	京都市	
			京都市外国籍市民総合相談窓口運営	京都で暮らす外国籍市民等の相談事などに対して、適切な窓口への案内等を行うための相談業務を、京都市国際交流会館において実施。	R1	緊急事態宣言下で京都市国際交流会館が臨時閉館になった際は、対面による相談業務はできなくなったが、電話による相談業務は継続して実施した。	引き続き、同窓口において相談業務を実施する。	京都市	
	③ 留学生の住まいの提供支援	充実	留学生のための住宅情報サイトの運営	留学生が多言語(日・英・簡・繁・ハンガル)で賃貸住宅を検索できるサイトを民間企業の協力を得ながら運営。	H26	4月～12月は、セッション数(2,971件)、ページビュー数(15,351件)となり、コロナ禍により落ち込んだ昨年度と比べ、セッション数は改善したもののページビュー数については減少した。	より多くの留学生に利用いただけるよう、海外フェアやSNS等を活用したPRに加え、首都圏の日本語学校を対象とした留学生誘致事業においても積極的にPRしていく。	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(2) 留学生の受入環境整備	③ 留学生の住まいの提供支援	充実	京都地域留学生住宅保証制度	連帯保証人を見つけることができない京都地域の留学生が「連帯保証人不要」な形で住宅確保ができるよう、京都地域留学生住宅支援機構加盟大学が、制度に賛同していただける協力事業者(仲介業者・管理者・家主)と協力して留学生を支援。	H22	・民間の保証制度が充実してきたことから機構としては平成30年度末で新規入会を停止していた。 ・令和3年度末をもってすべての継続会員の期限が終了することから、機構加盟大学による委員会により令和3年度末での機構解散及び令和3年度末における残余財産を留学生の住宅支援の目的に特定したうえで留学生スタディ京都ネットワークに寄付することが決定された。 (11名利用中※2月末現在)	—	大学コンソーシアム京都	
	④ 留学生と地域・日本人学生の交流促進	充実	外国人留学生交流等促進事業	留学生を含む市民団体などが主体となって行う留学生との交流活動に対して補助。	H22	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を踏まえ、昨年度に引き続き令和3年度は事業中止。 コロナ禍の長期化により、留学生と市民の協働による交流の計画・実施は困難であることから、令和4年度以降は事業廃止。	—	京都市	
			留学生と地域をつなぐ交流会	2017年度に実施した”留学生満足度調査”において課題となった”留学生と地域との交流促進”について、留学生と地域における様々なイベントを主催する地域団体等とつなげる交流会を実施し、留学生と地域のマッチング機会を創出。	R1	・留学生と地域交流イベント「京丹波黒豆の学校(田舎に触れて考える～農村地域の人たちとの交流の集い～)11/27」を新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら対面で実施。 (参加者 19名)	・留学生支援・交流コミュニティ「KyoTomorrow Academy」とも連携しながら、留学生と留学生との交流を希望する市民活動団体等との交流機会の創出を図る。 ・手法(対面・オンライン)については、コロナ禍における社会情勢等を見ながら、柔軟に対応していく。	京都市 大学コンソーシアム京都	
⑤ 留学生を対象とした日本語教育の支援	新規	日本語運用力向上講座	大学での日本語学習支援が十分でない、あるいは、交流を通じて日本語力を高めたい留学生を対象に、実戦での日本語運用力の向上を目指す講座を開設。	R2	・日本語運用力向上講座として「キャリア形成のための日本語学習(4回シリーズ:6-7月)」を新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら対面で実施。 ・うち2回は企業人の登壇(ワコール、彌栄自動車)や会社見学(彌栄自動車)を交えながら実践と学びを深めた (登録者15名、延べ46名参加)	・引き続き、日本語運用力向上につながる講座を検討・実施する。 ・手法(対面・オンライン)については、コロナ禍における社会情勢等を見ながら、柔軟に対応していく。	京都市 大学コンソーシアム京都		

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(2) 留学生の受入環境整備	⑥ 外国語による学習環境の整備・支援	継続	グローバル科目開設に向けた検討	外国語で履修できる各大学の科目について、単位互換制度による提供に向けた検討を実施。	R1	英語開講科目の京カレッジ生の受講などこれまでになかった新たな実績も生まれているが、ニーズの検討を十分行うにはいたっていない。	英語で行う科目の受講状況を注視し、想定されるニーズや必要とされる科目開設について検討する。	大学コンソーシアム京都	
		継続	国際交流会館における防災訓練	大規模災害の発生を想定し、外国籍市民等の防災意識を高め、災害時の通訳体制などの強化を図る訓練を実施。	H21	令和3年6月19日に訓練を実施。当日は、初期消火、救急救命訓練・応急処置等の体験や災害時通訳ボランティアとしての心構えを学ぶことができる講演などを実施した。	引き続き、同会館において防災訓練を実施する。	京都市	
	⑦ 災害時における留学生等の安全の確保	新規	災害時多言語電話通訳事業	災害発生時、避難所等が設置された際に、本市の職員や避難所の運営主体等が日本語を話せない外国籍市民等に対応できるよう、専用の電話回線により通訳が可能な体制を整える。	R2	災害発生時に避難所等において電話による通訳サービスを利用できる体制を維持した。	引き続き、同体制を継続する。	京都市	
		継続	京都市防災危機管理情報館	大規模災害時の留学生の安全確保を図るため、京都市総合防災訓練や京都市国際交流会館における防災訓練への留学生を含む外国籍市民の参加を促進するとともに、災害時における京都市国際交流会館を拠点とした通訳・通訳支援、多言語に対応した防火防災パンフレットの市内各所での配布や防災ポータルサイト「京都市防災危機管理情報館」での防災関連情報の発信等を実施。	-	リニューアルした京都市防災ポータルサイトでは、自動通訳機能(英語、中国語(繁体字、簡体字)、韓国・朝鮮語、やさしい日本語)により留学生等に対しても防災情報の提供を実施。また、各種ハザードマップについても多言語対応(英語、中国語(繁体字、簡体字)、韓国・朝鮮語)する予定である(3月末)	引き続き、防災ポータルサイトの運営を適正に行う。	京都市	
		継続	京都市防災危機管理情報館	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信。	-	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信	京都市	
(3) 留学生の進路・社会進出の支援	① 留学生の就職支援・マッチング事業の強化	充実	留学生就職サポート事業	京都の大学に在籍する留学生と京都企業を対象とした、求人・求職の情報提供・あっせんを行うウェブサイトを開設し、就職・採用の機会を創出(マッチング)するとともに、セミナーや交流会を開催し、地元企業への就職の機運を醸成。	H29	・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の登録数 留学生164名、企業214社(2月末時点) ・個別相談会 参加留学生数60名(2月末時点) 令和4年度から「地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業」と事業統合。	-	京都市	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(3) 留学生の進路・社会進出の支援	② 留学生の採用に積極的な地域企業の支援	充実	留学生就職サポート事業	京都の大学に在籍する留学生と京都企業を対象とした、求人・求職の情報提供・あっせんを行うウェブサイトを開設し、就職・採用の機会を創出(マッチング)するとともに、セミナーや交流会を開催し、地元企業への就職の機運を醸成。 【(再掲)2-(3)-1】	H29	・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の登録数 留学生164名、企業214社(2月末時点) ・個別相談会 参加留学生数60名(2月末時点) 令和4年度から「地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業」と事業統合。	—	京都市	
			留学生向けインターンシップ事業	京都地域在住留学生の、京都地域の企業(特に中小企業)に対し事業内容の理解を促し、留学生と企業の相互理解による、採用促進及び就職後の定着を促進。	H28	・従前の有給型に加えて無給型インターンシップを組み合わせて実施するハイブリッド形式に変更した。 ・また、ガイダンス、企業交流会や事前・事後研修・成果報告会をオンラインで実施する一方、インターンシップについては可能な範囲で対面で実施できるよう努めた。 ・留学生46名がエントリーし、マッチングの結果、26名(15社)がインターンシップを修了した。 ・有給型と無給型のハイブリッドとした効果もあってか、コロナ前(令和元年度:27名17社)に匹敵する規模となるとともに受入企業・団体の業種の幅も広がった。 ・これに伴い、留学生の実習先の選択肢も広がることとなり、結果として、留学生に充実したインターンシップ機会を提供することができた。	・有給型・無給型のハイブリッドとしたこともあり、令和3年度はコロナ禍においても一定数の受入企業・団体を確保することができたが、留学生に特化したインターンシップ受入企業・団体を確保することは継続した課題である。 ・引き続き経済団体等と連携した受入企業の開拓・拡充に努めるとともに、企業・団体にとっては有給のみよりも参入しやすく、留学生にとっては業種の幅が広がる、有給・無給ハイブリッド方式を継続して実施し、留学生に少しでも多くのインターンシップ就業の場が提供できるよう努める。	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(3) 留学生の進路・社会進出の支援	② 留学生の採用に積極的な地域企業の支援	充実	留学生就職支援・交流コミュニティ KyoTomorrow Academy事業	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業」の採択を受け、企業見学、ビジネス日本語研修、就職セミナー、交流会等を通じて、留学生が学生同士や企業、地域等と交流を図りながら、地元企業への就職意識を高め、京都での定着を促進。	H27	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン企業見学ツアーを1回(参加者14人)対面で、他団体との共催による留学生就職支援イベントを1回(参加者:留学生53人、企業9社)をオンラインで実施した。 ・日本語学習支援として、日本語スタディグループ「日本語で話そう!」を定期開催(基本オンライン、対面もあり)するとともに、日本語運用力向上講座「キャリア形成のための日本語学習(4回シリーズ:6-7月)」を新型コロナ感染予防対策を講じながら対面で実施。(登録者15名、延べ46名参加) ・留学生が興味を持ちそうな文化体験に関する情報発信を積極的に実施するとともに、京都市京セラ美術館での交流イベント(参加者29人)を対面で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生スタディ京都ネットワークの「留学生受入環境の整備」に係る取組として、日本語学習支援(スタディグループ等)、企業見学ツアー、他の団体との連携による就職支援、同コミュニティ「KyoTomorrow Academy」を活かした留学生同士、留学生と日本人学生、地域活動団体等との交流機会の創出などを実施する。 ・手法(対面・オンライン)については、コロナ禍における社会情勢等を見ながら、柔軟に対応していく。 	京都市 大学コンソーシアム京都	
	③ 留学生と企業がつながる機会の充実	充実	外国人留学生のための就職ガイダンス&ジョブフェア	日本での就職を目指す留学生に対し、就職活動に関する情報の提供や採用担当者と直接面談ができる説明会を実施(実施主体:(公財)京都市国際交流協会)。	H19	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市や留学生スタディ京都ネットワーク等が実施する就職支援に関する情報を留学生に提供 	留学生向けの就職ガイダンス&ジョブフェアをオンラインで実施	京都市	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目	
(3)	留学生の進路・社会進出の支援	③	留学生と企業がつながる機会の充実	充実	留学生向けインターンシップ事業	京都地域在住留学生の、京都地域の企業(特に中小企業)に対し事業内容の理解を促し、留学生と企業の相互理解による、採用促進及び就職後の定着を促進。 【(再掲)2-(3)-2】	H28 ・従前の有給型に加えて無給型インターンシップを組み合わせて実施するハイブリッド形式に変更した。 ・また、ガイダンス、企業交流会や事前・事後研修・成果報告会をオンラインで実施する一方、インターンシップについては可能な範囲で対面で実施できるよう努めた。 ・留学生46名がエントリーし、マッチングの結果、26名(15社)がインターンシップを修了した。 ・有給型と無給型のハイブリッドとした効果もあってか、コロナ前(令和元年度:27名17社)に匹敵する規模となるとともに受入企業・団体の業種の幅も広がった。 ・これに伴い、留学生の実習先の選択肢も広がることとなり、結果として、留学生に充実したインターンシップ機会を提供することができた。	・有給型・無給型のハイブリッドとしたこともあり、令和3年度はコロナ禍においても一定数の受入企業・団体を確保することができたが、留学生に特化したインターンシップ受入企業・団体を確保することは継続した課題である。 ・引き続き経済団体等と連携した受入企業の開拓・拡充に努めるとともに、企業・団体にとっては有給のみよりも参入しやすく、留学生にとっては業種の幅が広がる、有給・無給ハイブリッド方式を継続して実施し、留学生に少しでも多くのインターンシップ就業の場が提供できるよう努める。	京都市 大学コンソーシアム京都	
(4)	日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	①	日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	充実	「英語で京都をプレゼンテーション」	大学コンソーシアム京都加盟大学の学生のうち、海外留学を検討中又は留学を予定している学生や英語で日本や京都の魅力を発信することに興味がある学生を対象に、英語で京都や日本の魅力を発表できるよう研修事業を実施し、英語によるプレゼンテーション能力の向上、日本文化や京都の奥深い魅力を知り、理解する機会を提供。	H28 ・コロナ禍によりオンラインと対面を組み合わせたハイブリッドにより実施。(オンライン4回、対面2回) ・文化体験(茶道・華道)を含めオンライン対応を余儀なくされたが、文化体験(日本庭園・名勝無鄰菴)及び個人プレゼンテーションについては、対面で実施することができた。 ・希望者(修了者13名のうち12名)が京都市から「京都PR学生大使」に任命された。 ・満足度は100%。	・できる限り対面形式での実施に向けて取組を進めていく。 ・状況が許す限り、フィールドワークでの文化体験(茶道・華道)を含め、同じ留学を志す学生同士が直接出会い、刺激し合うことができるよう努める。	大学コンソーシアム京都	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2記載項目		
(4)	日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	①	日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	充実	「京(みやこ)グローバル大学」促進事業	留学生誘致をはじめ、交換留学にもつながる市内大学と海外大学との連携など、大学及び学生の国際化に向けた取組を点ではなく面として支援を広げていくことを目的に、留学生増につながる取組を行う大学を支援。	H28	国際化に係る新たな取組を進めるR2年度に認定した7大学(池坊短期大学、大谷大学、京都市立芸術大学、京都女子大学、京都精華大学、京都ノートルダム女子大学、佛教大学)を支援。	引き続き、国際化に資する取組を行う認定7大学を支援。	京都市	★
					「京都PR学生大使」制度	京都ファンや京都への留学生数の増加を目的として、「京都PR学生大使」を任命し、日本人学生の海外留学への関心を高めるとともに、留学先でのコミュニケーションの不安を軽減することによる海外留学促進と、学生が留学先などで京都の魅力を英語で的確に発信。	H30	・大学コンソーシアム京都主催の「英語で京都をプレゼンテーション講座」を修了した学生のうち、希望者を「京都PR学生大使」に任命 ・任命者数 12名 ・国内外において京都の魅力を発信	引き続き、京都PR学生大使から国内外に向けて京都の魅力を発信する。	京都市	
(5)	海外の大学との交流促進	①	海外の大学との交流促進	継続	海外における京都留学フェア開催	京都の学校(大学・日本語学校・専修学校)と連携し、海外で京都に特化した留学フェアや現地の教育機関等を回る京都留学説明会の開催、日本学生支援機構「日本留学フェア(JASSOフェア)」への参加による現地情勢や日本(京都)留学意向の把握、継続した京都の知名度アップなどを通じた、幅広い京都留学意欲の喚起を実施。【(再掲)2-(1)】	H27	・コロナ禍により渡航を伴う海外での誘致活動は見送り、海外エージェントや日本留学海外拠点連携推進事業の各拠点が実施するオンライン日本留学フェアに積極的に出展し、継続した留学先としての京都の知名度アップを図った。 (インドネシア、韓国、香港・マカオ・マレーシア・台湾、中国、英国、タイ、カンボジア、南アジア)	・オンラインでの説明会、個別相談について出展可能なオンライン説明会があれば出展やプレゼン動画などの資料提供を行うことで、プロモーションの機会を確保する。 ・現地でのプロモーション(可能な場合)については、コロナ禍が長期に継続し各国・地域の留学事情が流動化しており、様々な形態のプロモーションが考えられる状況となっていることから、JASSOフェア等への出展によるプロモーション活動を基本としながら、今後の現地でのより効果的なプロモーションを実施するため、地域や手法を絞り込む現地調査にも取り組む。 ・引き続き、海外における京都の知名度アップなどを通じた幅広い京都留学意欲の喚起を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(5) 海外の大学との交流促進	① 海外の大学との交流促進	継続	語学留学プログラム	留学プログラムが少ない大学で学ぶ学生においても、様々なレベルでの留学機会を確保できるよう、大学コンソーシアム京都とビクトリア大学連携組織との協定に基づくオーストラリアメルボルンでの留学派遣プログラムを実施。(単位互換制度を活用) また、留学機会の更なる創出のため、安近短(安全、近場、短期)な語学留学プログラムを開発。	H22	<ul style="list-style-type: none"> ・当初対面開催(渡航による留学)、途中からオンライン留学に切り替えて募集を行った。(4校のうち1校選択→2校から1校選択※オンライン留学) ・昨年度は応募者は0人であったが、オンライン留学が一定の認知を得てきたことに加え、オリエンテーションから現地担当者が積極的に関わる内容に工夫したことから、令和3年度は5名がオンライン留学予定となっている。 ・安近短な語学留学プログラムについてはコロナ禍によりマレーシアでの現地調査やその他情報収集等について実施を見送った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外への渡航を伴う留学を念頭に単位互換制度を活用した豪州メルボルン(ホスト校:龍谷大学)への海外語学研修派遣を引き続き実施する。 ・こうした留学機会を求める加盟校の学生に募集情報が届くよう、周知等を丁寧に行っていく。 ・コロナ禍の状況により再度オンライン留学となった場合でも、令和3年度に初めて送り出すオンライン留学参加者からのフィードバックを踏まえ、より充実したオンライン留学となるよう工夫を続けていく。 ・国際的な人の往来について見通しが立たない状況が続く中、財団が新たな安近短の語学留学プログラムを開発する優先度は高くなく、当面は社会情勢や各加盟校の各種短期留学プログラムの実施状況等を踏まえながら、可能な範囲で情報収集を行っていく。 	京都市 大学コンソーシアム京都	
		充実	国際化の事例共有	教職員の国際化支援の一環として、大学における様々な国際化の取組に係る事例共有セミナーを実施。	R1	<p>「立命館大学におけるオンライン留学の事例共有について ～立命館×UCデータベース Global Online Studyプログラムを中心に～」をテーマに事例共有オンラインセミナーを実施(参加者4名) 参加者は少なかったがその分密な意見交換ができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な人の往来は、コロナ禍により極めて流動的な状況となっている。 ・国際交流の状況に関する最新情報や他大学の取組・状況を情報収集したいニーズが高いことから、状況に合わせて様々なテーマを設定したセミナー等の開催を検討・実施する。 	大学コンソーシアム京都	

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(1) 学生の主体的活動の促進	① 京都学生祭典, 京都国際学生映画祭, 京都学生広報部, 京都から発信する政策研究交流大会等, 学生が主体となって運営している活動の充実に向けた支援 (京都学生祭典) (京都国際学生映画祭) (京都学生広報部) (京都から発信する政策研究交流大会)	充実	京都学生祭典	京都四大祭りを目指す京都学生祭典において、学生の成長と京都のまちの活性化の双方につながるものとなるよう支援。また、低年次生から地域等と関わる機会の拡充による学生の更なる成長を後押し。	H15	令和3年10月10日に平安神宮前・岡崎プロムナードから無観客でのステージ企画をライブ配信した。岡崎グラウンドにて来場型企画も行い、オンラインと現地開催のハイブリッド形式で開催した。 【実績値(本祭当日)】 YouTube視聴回数:12,926回, 公式HPアクセス数:30,738回, 参加型企画来場者数:265人	ここ2年、新歓活動が制限され新規実行委員数がコロナ禍の年度から大幅に減少していることから、まずは実行委員数の確保に向けてサポートする。本祭は節目となる第20回を迎え、対面での開催を第一に準備を進める。コロナ禍前の本祭を経験した実行委員がいない中、密にコミュニケーションをとりながら活動を支援する。	大学コンソーシアム京都	★
			京都国際学生映画祭	上映機会の少ない学生が制作した自主映画を世界各地より集め、上映する機会を学生が創り出すことを通して、未来の映画人を担う人材・才能の発掘を目指すとともに、学生実行委員の成長を促進。	H9	令和4年2月11日～13日に、第24回京都国際学生映画祭を京都文化博物館フィルムシアターにおいて開催(参加者数:313人)。2月18日～25日にはオンラインでも配信した。(視聴回数:366回)	引き続き、コロナ禍を念頭に京都国際学生映画祭実行委員の活動を支援するとともに、実行委員の学びとなる研修プログラムを行う。	大学コンソーシアム京都	
			京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	H27	・ウェブサイト「コトカレ」の他、SNS(Twitter, Instagramなど)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力を発信した。 ・よしもと祇園花月との連携企画等を検討した。	引き続き、学生目線による大学生活の魅力発信を充実させるとともに、企業等と協働した取組を展開する。	京都市 大学コンソーシアム京都	
			京都から発信する政策研究交流大会	都市政策を学ぶ学生・院生が中心となり、日頃の研究や学習の成果発表を通じて交流を深めるとともに、地域社会に対して政策提案、情報発信の場となることを目的に政策研究交流大会を開催。	H17	・第17回大会をオンライン開催(日時:令和3年12月19日。参加者数:607名) ・奨励賞受賞者による行政に対する報告会を開催(日時:令和4年3月4日。参加自治体:京都市)	引き続き、意義ある発表の場となるよう改善を図るとともに、研究成果が社会に還元される仕組みづくりにも取り組む。	大学コンソーシアム京都	

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(1) 学生の主体的活動の促進	② 学生Place+(ふらす)の更なる活用促進	充実	学生Place+(輝く学生応援プロジェクト)	キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対して、活動場所の提供や専門コーディネーターによる助言・指導等を通じた支援を実施	H21	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施している。(学生Place+来場者数(12月末現在):10,162名) ・コロナ禍で活動が制限される中、京都のまちで主体的に活動している学生団体を後押しする機会として「輝く学生応援アワード」を実施した。13団体が応募し、5団体が受賞した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視しながら、引き続き、学生が大学の枠を超えて京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施する。 	京都市	★
	③ むすぶネットの活性化	充実	むすぶネット(輝く学生応援プロジェクト)	発表の場を求めている音楽や踊りなどの学生団体・サークルと、地域の夏祭りなどに学生の参加を求める自治会等のマッチングや、地域の課題解決に大学や学生の協力を求めている地域と大学で得たことを実践する場を求めている学生を繋げるにより、さらなるまちの活性化、京都のまちづくりを推進。	H21	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを実施している。 ・登録団体は学生団体13件。地域団体24件となっているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、マッチング件数は0件である(12月末時点)。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視しながら、引き続き、ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを促進する。 	京都市	
	④ ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	新規	ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	京都市のふるさと納税に、「京都学生祭典」をはじめとした学生の挑戦を応援する寄付メニュー及び大学・学生と地域の連携強化等を図るための寄付メニューを開設し、「大学のまち京都・学生のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たったの財源確保を促進。	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市のふるさと納税制度における「京都学生祭典をはじめとした学生さんの挑戦を応援する寄付メニュー」において、寄付を募るとともに、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信に努めた。 ・大学との連携協定に基づき、大学・学生と地域の連携強化を図るため、各大学と協働する新たな応援メニューを開設し、各大学において、卒業生等を対象に、広く寄付を呼び掛けていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、同メニューへの寄附の促進を図り、京都の学生を応援しようというファンを広く全国から獲得するとともに、各大学において実施する地域の連携強化等に関する事業の後押しを行い、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上につなげていく。【大学・学生と地域の連携強化等に関する協定大学】R3:3大学→R4:24大学・短期大学 	京都市	★

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(2) 学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	① 学生と地域の連携強化	充実	大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)	魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生と地域が一体となって取り組む事業を広く募集し、助成金を交付するとともに、区役所等と協力し、学生と地域のつながりをより一層促進。	H16	11事業を採択し、支援するとともに、地域連携WEBサイト等で取組事例の発信を行った。	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、地域連携事業について支援を行う。 政策研究交流大会の発表者への広報等、広報の充実により、応募者の増加に努める。 	京都市 大学コンソーシアム京都	
			持続可能なまちづくり支援事業	柔軟で活力に満ちた若い力を地域の課題解決や地域活性化にいかすとともに、地域社会との関わりの中で得られる学びの機会を創出すること等を目的として、「区民提案型支援事業」に学生等への支援枠を設け、「共汗型事業」では学生をはじめとした若者と連携した事業を展開。	H24	区民提案型支援事業等により、学生と地域が連携した取組に対して支援を行った。	区民提案型支援事業等において、引き続き、学生と地域の連携強化の取組を推進する。	京都市	
			京都から発信する政策研究交流大会	都市政策を学ぶ学生・院生が中心となり、日頃の研究や学習の成果発表を通じて交流を深めるとともに、地域社会に対して政策提案、情報発信の場となることを目的に政策研究交流大会を開催。【(再掲)3-(1)】	H17	<ul style="list-style-type: none"> 第17回大会をオンライン開催(日時:令和3年12月19日。参加者数:607名) 奨励賞受賞者による行政に対する報告会を開催(日時:令和4年3月4日。参加自治体:京都市、京都市) 	引き続き、意義ある発表の場となるよう改善を図るとともに、研究成果が社会に還元される仕組みづくりにも取り組む。	大学コンソーシアム京都	
			京(みやこ)の水キャンペーン	人口減少と節水型社会の進展により、低減傾向にある水需要の喚起に向け、市内大学と連携し、水道水をPR(飲用、お風呂の利用促進)する。	H25	新型コロナウイルス感染拡大及び行財政改革計画に基づくイベント見直しを受け、対面型のキャンペーンは開催を見合わせている。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見つつ、費用のかからない啓発活動等において大学との協働を模索	京都市	

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(2) 学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	② 地域活動への学生の参画促進	継続	消防団入団促進事業	<p>若者の消防団への入団促進を図ることで、消防団の活性化、充実強化を図るため、以下取組を実施。</p> <p>1 消防団員の入団資格の拡充 「京都市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例」を改正し、市外に居住する学生も市内に通学していれば入団できるよう入団資格を拡充。</p> <p>2 消防団防災ハイスchoolの実施 消防団員が地元の高等学校に出向き、放水活動やAEDの取扱いなど消防団活動の体験を中心とした防災教育を行う「消防団ハイスchool」を開始。</p> <p>3 学生認証制度の創設 大学等に通学しながら消防団活動に取り組み、地域社会へ貢献した大学生等の功績を認証する学生消防団活動認証制度を開始。</p> <p>4 消防団充実強化実行チームによる入団促進 消防団全体の活性化を図るため若手消防団員を中心として結成された消防団充実強化実行チームのメンバーが大学やターミナル駅等に出向いて入団勧奨活動を実施。</p>	H27	<p>新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら、学生や若者へ継続的な入団促進活動を行った。</p> <p>1 学生の入団促進 令和3年4月現在212名であった学生団員数は、令和4年1月現在で266人と増加しており、引き続き、大学等に通学する学生に対して、広報媒体等を活用し、入団促進を図る。</p> <p>2 消防団防災ハイスchoolの実施 新型コロナウイルス感染症への対策を行いながら、令和3年12月末現在の実施状況は、11校、1,786人、指導団員31名となっている。</p> <p>3 学生認証制度の周知、利用促進 令和3年度中、令和3年12月末現在で学生認証制度の利用学生団員は20名で、平成27年度から延べ139名を認証した。</p> <p>4 消防団充実強化実行チームによる入団促進 Facebookを活用し、消防団の魅力やPRするとともに、今年度から若者を中心とする世代が活用しているツールであるInstagramを開発し、イベントなどが開催できない中でもSNSによるPRができる幅広い体制を構築している。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら、継続的に入団勧奨を行える取組について検討する。</p> <p>1 学生の入団促進 大学等と連携を図りながら、大学生の入団促進を図る。</p> <p>2 消防団防災ハイスchoolの実施 新型コロナウイルス感染症への対策を行いながら、学校の授業の中で防災教育を行えるよう学校に協力を呼び掛ける。</p> <p>3 学生認証制度の周知、利用促進 SNS等を利用し、広く学生認証制度の周知を図る。また、現役の学生団員に制度の利用を促進するため、あらゆる機会を通じて周知を図る。</p> <p>4 消防団充実強化実行チームによる入団促進 既存のFacebookに加え、令和3年度に開設したInstagramを活用し、オンラインでも消防団のPRを行い、入団促進活動をできるようにする。</p>	京都市	
			自治会等への加入促進(きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰)	<p>自治会・町内会等を中心とする多様な主体の連携による地域コミュニティ活性化への取組を一層推進することを目的に、自治会・町内会等の地域団体が主体となって取り組む地域活動に関して、これと連携・協力し、地域力の向上に貢献している事業者、NPO法人、大学、マンション等を顕彰し、自治会・町内会等を中心とする多様な主体の連携による地域コミュニティ活性化への取組を一層推進。</p>	H25	<p>令和3年度以降は、京都市自治記念式典の「未来の京都まちづくり推進表彰」の区分に統合</p>	—	京都市	
		自治会等への加入促進	<p>学生に対し、自治会・町内会への加入促進、地域活動への参加等と呼び掛けるメール等を配信。</p>	H28	<p>令和3年4月に大学コンソーシアム京都加盟校等へのメール周知や学生向けアプリ(KYO-DENT)での通知を実施</p>	<p>令和4年4月に大学コンソーシアム京都加盟校等へのメール周知や学生向けアプリ(KYO-DENT)での通知を実施予定</p>	京都市		

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(2) 学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	② 地域活動への学生の企画促進	継続	むすぶネット(輝く学生応援プロジェクト)	発表の場を求めている音楽や踊りなどの学生団体・サークルと、地域の夏祭りなどに学生の参加を求める自治会等のマッチングや、地域の課題解決に大学や学生の協力を求めている地域と大学で得たことを実践する場を求めている学生を繋げることにより、さらなるまちの活性化、京都のまちづくりを推進。 【(再掲)3-(1)】	H21	・ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを実施している。 ・登録団体は学生団体13件。地域団体24件となっているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、マッチング件数は0件である(12月末時点)。	新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視しながら、引き続き、ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを促進する。	京都市	
			学生ボランティアチャレンジ(輝く学生応援プロジェクト)	社会貢献活動等に関心のある学生とボランティア活動とをマッチングすることにより、学生が社会的な課題や社会貢献活動に触れる機会を創出。	H26	学生とボランティア活動とのマッチングを行い、地域活動への学生の参画を促進している。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、受入団体の実施プログラムの調整に時間を要するため前期後期の別を設けず、7月27日から募集を開始している(参加者数:19名 12月末時点)。	新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視しながら、引き続き、学生とボランティア活動とのマッチングを行い、地域活動への学生の参画を促進する。	京都市	
			学生防犯ボランティアへの支援	「互いに助け合う、犯罪や事故が少ないまち」を目指し、大学生への支援と連携を進めるため、学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」への支援などを実施。 ※学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」自主防犯活動への参加を希望する大学生を対象に、京都府警察が設けた学生ボランティア登録制度	H23	・学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」による、防犯パトロールなどの学生防犯活動に対して補助金を交付しており、これを活用した防犯教室等各種の活動を実施中。 ・「ロックモンキーズ」「京都市長」「天花寺さやか氏(京都を舞台にした小説「京都府警あやかし課の事件簿」著者)」「椿原正人氏(京都市防犯推進委員連絡協議会 会長)」の4者による、京都の安心安全をテーマにした対談を実施。対談の様子については「きょうと動画情報館」で公開。	引き続き、学生が主体となった防犯活動への支援を行う。	京都市	
	③ 大学・地域連携ウェブサイトの開設	新規	大学・地域連携ウェブサイトの開設	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学促進事業」,各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し、新たな連携や取組の深化を促進。	R1	サイトのレイアウトの改善を図るとともに、大学・地域連携シンポジウムの申込先とするなどして、閲覧数の増加を図った。	引き続き、地域連携に係る情報の配信を行うとともに、効果的なサイトのあり方について検討を行う。	大学コンソーシアム京都	

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(3) 大学卒業後の多様な選択肢を描ける学びの機会の充実	① インターンシップ事業の充実	充実	インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。	H10	<ul style="list-style-type: none"> 「ビジネス・パブリックコース」では実習の事前と事後に実施する講義をオンラインにて実施した。「長期プロジェクトコース」では対面での実施を追求しつつも状況に応じてオンラインと併用して実施した。 出願、面接、レポート等の提出はWebにて行った。 低年次生向けの広報を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、講義は令和3年度同様にオンラインを取り入れて進める。あわせて、出願、面接、レポート等の提出についてもWebにて行う。 「長期プロジェクトコース」では現在のニーズを踏まえたプロジェクト形成およびチーム形成に重点を置いたプログラムへ発展させるための検討を行う。 	大学コンソーシアム京都	
	② 多様な生き方・学びを考える機会の創出	充実	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	学生と京都の中小企業との交流会の開催等、相互理解を深める取組を実施。	H28	<p>学生と地域企業との交流会等を開催(回数:40回(うち15回はオンライン, 2回はオンライン+対面で実施), 参加者:2,300名, 参加企業:169社) ※令和3年12月末時点</p>	引き続き、学生と企業の相互理解を深めるため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、状況に応じオンラインでも実施する。	京都市	
			西陣を中心とした地域の活性化	学生や企業の要望に応じて、低年次の学生も対象としたインターンシップや企業見学会等の開催をサポートし、早い段階から京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進。	H28	<p>インターンシップ、見学会等の実施(回数:53回, 参加者61名, 参加企業35社) ※令和3年12月末時点</p>	引き続き、学生の京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進するため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、状況に応じオンラインでも実施する。	京都市	
				平成31年1月に策定した「西陣を中心とした地域活性化ビジョン～温故創新・西陣～」に基づき、西陣で継承されてきた多彩な魅力・資源をつなぎ、そこに新たな担い手や知恵を融合させることで、未来に向けた創造を生み出す取組の推進。	R1	<ul style="list-style-type: none"> 「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」に基づく各種取組を推進。 活性化プロジェクト「西陣connect」が開催するマルシェに学生が参画し、企画・販売等を行った。 「西陣を中心とした地域」のまちづくりに関心がある方(学生を含む)が参加する「つぎの西陣をつくる交流会(つぎにし)」をオンラインで開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」に基づく各種取組を推進。 活性化プロジェクトの取組等において、学生との連携などを検討していく。 	京都市	

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目		
(3)	大学卒業後の多様な選択肢を描ける学びの機会の充実	②	多様な生き方・学びを考える機会の創出	充実	児童館等における大学生職業体験事業	学生を児童館等に派遣し、施設職員と同様の業務を行うことを想定した、職務実践型の職業体験事業を実施することにより、学生の学びの充実や、学生と関わる子どもたちの育ち・学びを支援。	R1	協定を締結した市内1大学から、合計12名の学生が、それぞれ5日間の職業体験に参加。	引き続き、協定を締結した市内2大学を中心に、参加学生を募集する。	京都市	
		③	高大社連携キャリア教育企画の充実	充実	高大社連携キャリア教育企画	高校生と大学生のキャリア発達を促すことを目的として、テーマを設けて高校生・大学生・社会人といった世代間や学校間を越えて対話し交流する「高大社フューチャーセッション」を実施。	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・高大社連携フューチャーセッション(ハイブリッド形式での開催11/7) 【参加者数:高校生10名, 大学生16名(内訳:一般参加者 高校生3名, 大学生12名 実行委員参加者 高校生7名, 大学生4名)】 * 対面参加22名, オンライン参加4名 ・成果報告会兼振り返り会(「第19回高大連携教育フォーラム特別分科会②【高大社連携キャリア教育】」に位置づけ, オンライン開催 12/18) 【参加者数:一般参加者20名, 実行委員参加者11名】 	令和3年度に引き続き、「高大社連携フューチャーセッション」を開催する。より多様な高等学校・大学の生徒・学生が参加しやすい企画となるよう、各組織間の連携協力のもと、開催時期・場所等に十分に配慮しながら検討を行う。また、キャリア教育における各校・各大学との積極的なネットワーク構築を図れるよう工夫を重ねる。また、実施形態については、新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況にもよるが、可能であれば対面もしくはハイブリッド形式での開催を考える。	大学コンソーシアム京都	
(4)	学生が京都の文化や魅力と触れ合う環境づくり	①	学生が京都の文化や魅力に触れる機会の拡充	充実	キャンパス文化パートナーズ制度	市域の大学と連携し、学生が京都の多彩な文化に触れ、体験する機会を提供するとともに、そのための経済的な負担を軽減。	H22	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市内の文化施設に協力いただき、学生の優待を実施(53施設, 1事業) ・「大学のまち京都・学生のまち京都アプリ(KYO-DENT)」を通じて、制度を利用する学生に対して、文化芸術情報の配信を実施 	「大学のまち京都・学生のまち京都アプリ(KYO-DENT)」との連携により、制度利用者の増加や利便性の向上を図るとともに、優待文化施設の充実に取り組む。	京都市	
					学生向けアプリ KYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。 【(再掲)1-(2)】	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・ダウンロード数:19,901 DL ※2月末時点 ・ダウンロード数の増加に向けて、SNS等を活用した広報を実施。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種に関する情報等を学生へ発信した。 ・ニュース配信にて、オンラインイベントを積極的に配信した。 ・効果的な利用に向けてレイアウトの改善を図った。 ・安定的な運営に向けて、企業からの協賛を得た。(1件) 	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。また、引き続きアプリを活用して新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種の情報等を学生へ発信していく。	京都市 大学コンソーシアム京都	★

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(4) 学生が京都の文化や魅力と触れ合う環境づくり	① 学生が京都の文化や魅力に触れる機会の拡充	充実	京都・和の文化体験の日	日本文化の真髄である京都の文化芸術を次の世代にしっかりと伝えていくため、学生をはじめとする若者が「和の文化」に触れ、体験し、伝統産業に親しむ機会を提供。	H25	令和2年度事業終了	—	京都市	
			単位互換科目の充実	京都世界遺産PBLに引き続き、京都ミュージアムPBLを開設。 【(再掲)1-(1)】	H6	「京都世界遺産PBL科目」は4大学・4所有者による5科目を開講した。全科目合計で93名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。 「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4施設による4科目を開講し、全科目合計で78名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。	・「京都世界遺産PBL科目」は5大学・5所有者による6科目を開講する。 ・「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4施設による4科目を開講する。 ・いずれもオンラインと対面での活動を併用して実施する。 ・受講者確保に向け積極的に広報活動を行うとともに、着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、相互の積極的なサポートを実施する。	大学コンソーシアム京都	
			京都国際舞台芸術祭	「京都文化の〈現在〉を世界に発信する、新たな観光資源としての国際フェスティバルを目指す」ことを基本理念とし、次世代の人材育成や本市の重要事業との連携など、京都の未来を見据えて展開し、国内外の先駆的な舞台芸術を紹介する世界的な芸術祭を開催。	H22	令和3年10月1日から24日にかけてKYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 AUTUMN」を実施。	令和4年秋期(10月)に実施予定。	京都市	
② 留学生が京都の文化芸術に親しむ機会の創出	継続	京都で学ぶ留学生の受入環境支援・体験交流促進事業 【(再掲)2-(2)-①】	入学直後の留学生に行政手続きや生活ルールに係る情報提供等を行う「ウェルカム・パッケージ」、京都市の文化施設の見学・体験等の機会を提供する「留学生優待プログラム」を実施。加えて、R4年度からは新たに京都で学ぶ多様な学生が、京都ならではの文化芸術や伝統産業に触れる「参加体験型プログラム」を本格実施。	H21	市内文化施設等への入場優待が受けられる「留学生おこしやすPASS」の配布やイベントへの無料招待等を実施した。 (おこしやすPASS利用者数:留学生461名,日本人学生26名, イベント無料招待:参加者数417名(いずれも12月末時点)) また新たに京都で学ぶ多様な学生が、京都ならではの文化芸術や伝統産業に触れる「参加型体験プログラム」を試行実施した。	市内文化施設等への入場優待が受けられる「留学生おこしやすPASS」やイベントへの無料招待等を引き続き実施するとともに、「参加型体験プログラム」を本格実施する。	京都市		
									③ 若手アーティスト・クリエイターの育成

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目	
(4)	学生が京都の文化や魅力と触れ合う環境づくり	③	若手アーティスト・クリエイターの育成	充実	京都学生アートオークション	京都の芸術系大学で学ぶ学生のキャリア支援を目的としたオークションを開催(京都学生アートオークション実行委員会主催)。	H29	令和4年3月6日に京都市京セラ美術館にて、オンラインでも参加可能な形で開催予定。	外部資金の獲得により、開催予定。	京都市
					京都文学賞	京都を題材とする文学作品を募集、表彰することにより、京都における文学の更なる振興とともに、「文化都市・京都」の発信や、京都の歴史と幅広い魅力の再認識、都市格の向上を促進。	R1	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年4月30日から9月13日まで小説を募集(一般、中高生、海外部門の合計応募作品数は、270作品)。 書評家などの専門家による一次選考を実施し、11月10日に一次選考結果を発表(一次選考通過作品は45作品)。 読者選考委員による二次選考を実施し、令和4年1月7日に二次選考結果を発表(二次選考通過作品は11作品)。 3月に受賞作を発表、表彰式を実施予定。 	引き続き、文学の更なる振興、新人作家の発掘・育成を図るとともに、読書好きの若者をはぐくむため、運営方法等を検討しながら、本事業を実施する。	京都市

柱4 学生の進路・社会進出の支援

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(1) 京都の 地域企業と連携 した担い 手育成と 地域企業 の魅力発信	① 地域企業と連携した担い 手育成	継続	インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。 【(再掲)3-(3)】	H10	<ul style="list-style-type: none"> ・「ビジネス・パブリックコース」では実習の事前と事後に実施する講義をオンラインにて実施した。「長期プロジェクトコース」では対面での実施を追求しつつも状況に応じてオンラインと併用して実施した。 ・出願、面接、レポート等の提出はWebにて行った。 ・低年次生向けの広報を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、講義は令和3年度同様にオンラインを取り入れて進める。あわせて、出願、面接、レポート等の提出についてもWebにて行う。 ・「長期プロジェクトコース」では現在のニーズを踏まえたプロジェクト形成およびチーム形成に重点を置いたプログラムへ発展させるための検討を行う。 	大学コンソーシアム京都	
			地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業	大学や国籍の垣根を超えた多様な学生・留学生がチームで、京都企業と連携して課題に取り組むPBLプログラムを実施。	H26	<p>留学生を含む学生のチームが、京都企業と連携したPBLにより、企業の提示する課題の解決や学生から企業への提案などにオンラインも活用しながら取り組んだ。 (プロジェクト数:10, 参加者:11 大学・64名(うち留学生13名)(2 月末時点)</p>	「留学生就職サポート事業」と「京都企業と連携した次代の京都を担う人材(担い手)の育成事業」を統合し、従来のPBLに加え、留学生を含む学生が就職活動前の早い段階から、京都企業を出会い・知るきっかけづくりの場を新たに設ける。	京都市	★
	② 地域企業の魅力発信の強化	充実	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	京都企業・就業情報データベースを作成し、ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用して情報発信を行うことで、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業魅力を広く周知。	H21	ウェブサイト「京のまち企業訪問」の掲載企業(掲載企業数:3,930社) ※令和3年12月末時点	令和4年度は、ウイズコロナにおける地域企業の採用活動のオンライン化への対応を一層支援するため、新たに新卒採用やインターンシップ情報などを発信できるようにするなどの取組を行う。	京都市	★
	学生や企業の要望に応じて、低年次の学生も対象としたインターンシップや企業見学会等の開催をサポートし、早い段階から京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進。【(再掲)3-(3)】		H28	インターンシップ、見学会等の実施(回数:53回, 参加者61名, 参加企業35社) ※令和3年12月末時点	引き続き、学生の京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進するため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、状況に応じてオンラインでも実施する。	京都市			

柱4 学生の進路・社会進出の支援

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(1) 京都の地域企業と連携した担い手育成と地域企業の魅力発信	② 地域企業の魅力発信の強化	充実	インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。【(再掲)3-③】	H10	<ul style="list-style-type: none"> 「ビジネス・パブリックコース」では実習の事前と事後に実施する講義をオンラインにて実施した。「長期プロジェクトコース」では対面での実施を追求しつつも状況に応じてオンラインと併用して実施した。 出願、面接、レポート等の提出はWebにて行った。 低年次生向けの広報を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、講義は令和3年度同様にオンラインを取り入れて進める。あわせて、出願、面接、レポート等の提出についてもWebにて行う。 「長期プロジェクトコース」では現在のニーズを踏まえたプロジェクト形成およびチーム形成に重点を置いたプログラムへ発展させるための検討を行う。 	大学コンソーシアム京都	★
			京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」において、京都の地域企業を取材した記事を発信。	H27	京都の地域企業を取材し、ウェブサイト「コトカレ」やSNSで発信した。	引き続き、京都の地域企業の情報を発信する。	京都市 大学コンソーシアム京都	
	③ 地域企業と学生の出会いの場づくり	充実	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	大学への出張セミナーの実施や、就職活動に関する様々な相談への対応により、職業観を醸成し、卒業後の多様な選択肢を描ける担い手を育成するとともに、就職後のフォローアップを実施。	H28	<ul style="list-style-type: none"> 出張セミナー等の実施(回数:23回(うち14回はオンライン、2回はオンライン+対面)、参加者:516人) 個別カウンセリングの実施(人数:延べ739人(うち497人はオンライン)) ※令和3年12月末時点	引き続き、学生の職業観の醸成や卒業後の多様な選択肢を描ける担い手の育成、就職後のフォローアップのため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、状況に応じオンラインでも実施する。	京都市	
				学生や企業の要望に応じて、低年次の学生も対象としたインターンシップや企業見学会等の開催をサポートし、早い段階から京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進。【(再掲)3-③】	H28	インターンシップ、見学会等の実施(回数:53回、参加者61名、参加企業35社) ※令和3年12月末時点	引き続き、学生の京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進するため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、状況に応じオンラインでも実施する。	京都市	
				学生と京都の中小企業との交流会や、キャリア授業交流会の開催等、相互理解を深める取組を実施。【(再掲)3-③】	H28	学生と地域企業との交流会等を開催(回数:40回(うち15回はオンライン、2回はオンライン+対面)で実施)、参加者:2,300名、参加企業:169社) ※令和3年12月末時点	引き続き、学生と企業の相互理解を深めるため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、状況に応じオンラインでも実施する。	京都市	
				京都企業・就業情報データベースを作成し、ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用して情報発信を行うことで、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業の魅力を広く周知。【(再掲)4-(1)】	H28	ウェブサイト「京のまち企業訪問」の掲載企業(掲載企業数:3,930社) ※令和3年12月末時点	令和4年度は、ウィズコロナにおける地域企業の採用活動のオンライン化への対応を一層支援するため、新たに新卒採用やインターンシップ情報などを発信できるようにするなどの取組を行う。	京都市	

柱4 学生の進路・社会進出の支援

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目		
(1)	京都の地域企業と連携した担い手育成と地域企業の魅力発信	③	地域企業と学生の出会いの場づくり	充実	グローバル拠点推進事業	スタートアップと学生・留学生との交流の場を創出し、スタートアップの人財確保を支援する。	R3	・スタートアップと学生・留学生との交流イベントを開催	引き続き、京都で働きたい京都の学生・留学生とスタートアップが直接交流できる場を創出する。	京都市	
			The Future of KYOTO AWARD	学生が市内定着、市内企業就職に向け、企業と学生を繋ぐ取組として、「The Future of KYOTO AWARD」を創設し、民間企業と連携して学生主体の地域課題解決の取組を実施する。本取組は、学生自らが地域課題を発掘し、解決策の検討・提案、実践までを行う。賛同企業には、提案採択の際の審査・表彰、また、実践の際には、助言等の御協力をいただき、学生の成長と一緒に応援いただく。	R3	学生が地域や企業を知り、京都と関わりを持つことで、学生の市内への定着、京都の未来の担い手育成へつなげることを目的として、学生が主体となり、地域の課題解決に取り組む「The Future of KYOTO AWARD」を創設し、一緒に学生の成長を応援していただける企業を募集。	SDGsの理念のもと、地域課題の解決や若者等の学びと成長、地域社会の活性化などを進めることを目的に連携協定を締結している、京都銀行、京都信用金庫、京都中央信用金庫及び日本たばこ産業の4社が本市とともに当初の賛同企業として参画しており、引き続き、賛同企業を募りながら、学生による地域の課題解決の取組を進めることで、学生を応援していく。	京都市	★		
	④	学生のベンチャーマインド・ソーシャルビジネスマインドの育成	充実	ものづくりベンチャー戦略拠点事業	次代の京都経済をリードするベンチャー・スタートアップ企業の発掘・育成のため、起業・ものづくり・イノベーション等をテーマにKyoto Makers Garageで交流イベントを開催。	H29	・ものづくりベンチャー戦略拠点であるKyoto Makers Garageにおいて、学生を対象としたものづくりや起業マインドの醸成に資するイベントを開催	引き続き、学生のものづくりへの関心を高めるとともに、起業マインドを醸成するため、学生を対象とした交流イベントを開催する。	京都市		
		京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター創出支援事業	ビジネスを通して社会的課題の解決に取り組むソーシャルビジネス事業者の集積(ソーシャル・イノベーション・クラスター)を図るため、ソーシャルビジネスの認定制度の運用及び各種支援による社会的企業の育成・誘致を実施。	H27	各大学において、京都市のソーシャル・イノベーションの取組について講義を行った。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部オンラインで実施)	引き続き、各大学において、京都市のソーシャル・イノベーションの取組について講義を実施する。「これからの1000年を紡ぐ企業認定」において、ソーシャルビジネスアイデアを発表するピッチイベントの参加対象者に学生を加える。	京都市				
	⑤	学生の就職活動の支援	継続	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	大学への出張セミナーの実施や、就職活動に関する様々な相談への対応により、職業観を醸成し、卒業後の多様な選択肢を描ける担い手を育成するとともに、就職後のフォローアップを実施。【(再掲)4-1】	H28	・出張セミナー等の実施(回数:23回(うち14回はオンライン、2回はオンライン+対面)、参加者:516人) ・個別カウンセリングの実施(人数:延べ739人(うち497人はオンライン)) ※令和3年12月末時点	引き続き、学生の職業観の醸成や卒業後の多様な選択肢を描ける担い手の育成、就職後のフォローアップのため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、状況に応じオンラインでも実施する。	京都市		

柱4 学生の進路・社会進出の支援

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目	
(2)	「働き方改革」の推進と学生を取り巻く就労環境の向上	①	働き方改革実践企業等の学生への周知	新規	京の企業働き方改革総実践プロジェクト	地域企業が働き方改革の取組状況を自己診断し、その結果を企業の魅力として、WEBサイト「京のまち企業訪問」上で発信する「京の企業『働き方改革』自己診断制度」を実施。	H30 企業の働き方改革の取組状況について、WEBサイト「京のまち企業訪問」を活用し発信した。 (取組状況公開企業数:3,436社) ※令和3年12月末時点	引き続き、企業の魅力を発信するため、WEBサイト「京のまち企業訪問」において、働き方改革に取り組む地域企業の情報を発信する。	京都市	
		②	学生を取り巻く就労環境の向上	充実	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	ワークショップ形式で労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発等を目的としたセミナーを開催。 また、ブラックバイトの根絶に向けて、「京都市わかもの就職支援センター」に相談窓口を設置し、アルバイトに関するあらゆるトラブルについて対応。【(再掲)1-(2)】	H28 ・「働くルールを知るセミナー」の開催(回数:1回、参加者:66名、オンラインで開催) ・「ブラックバイト相談窓口」での対応(相談件数:2件) ※令和3年12月末時点	引き続き、労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発や、ブラックバイトの根絶に向け、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、状況に応じオンラインでも実施する。	京都市	

柱5 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	① リカレント教育(職業人・社会人向けの教育プログラム)等の実施・充実	新規	リカレント教育の推進支援, 実施に向けた検討	各大学等が実施するプログラムを共有したうえで, リカレント教育の推進に向けた支援策を検討・実施。	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・「大学リカレント教育リレー講座」として6大学6講座を主にオンラインで実施し, 合計148名の受講があった。 ・各大学のリカレント教育への支援策を, 上記リレー講座の実施から広報ポータルサイト運営へと発展させることについて検討した。 ・大学コンソーシアム京都が実施するリカレントプログラムについて検討を重ね, 令和4年度からの2プログラム開講を決定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学のリカレント教育情報を網羅できるポータルサイト(あるいはそれに準ずるもの)を導入し, 運営を開始する。 ・大学コンソーシアム京都主催のリカレントプログラム「データサイエンス講座」「現代の教養講座」を開講する。 ・令和5年度にさらに1プログラム開講するための検討を行う。 	京都市 大学コンソーシアム京都	★
	② 京(みやこ)カレッジにおける教養講座の充実	充実	生涯学習事業「京カレッジ」の充実	一般市民を対象とした生涯学習事業である「京カレッジ」において, 新・文化庁との連携や「東京2020オリンピック・パラリンピック」等の時代のトピックスを踏まえた内容を反映。	H19	<ul style="list-style-type: none"> ・26大学1機関(前年度29大学2機関)から198科目(同224科目)を提供し, 延べ1,157名(同1,070名)の受講があった。 ・京都学講座を含む市民教養講座としてキャンパスプラザで開講した6科目(同78科目)の受講は801名(同624名)であった。大学リレー講座では11大学11講座をリレー形式で行い, 平均100名程の受講となっている。感染防止策としていずれも教室定員の2分の1を受講定員として設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度「京カレッジ」京都力養成コースにおいて, 京都の「復活」に焦点を当てた講座を開講する。 ・対面での講座実施となることから, 受講定員は引き続き教室定員の2分の1として実施する。 ・令和4年度から開始する大学コンソーシアム京都主催のリカレントプログラムを京カレッジ科目に位置付け, 京カレッジ科目の充実および受講者増につなげる。 	京都市 大学コンソーシアム京都	
	③ 公開講座や大学施設の情報発信	充実	「大学リレー講座」による各大学の生涯学習事業の情報発信	一般市民を対象とした生涯学習事業「京カレッジ」のひとつとして各大学の特色ある講座をリレー形式で実施する。あわせて講座実施校のキャンパスで実施する講座やイベント等を紹介し大学の魅力をPR。	H28	<ul style="list-style-type: none"> 「京カレッジ」において, 各大学(11大学)の特色ある講座をリレー形式で実施した。 感染防止策としていずれも教室定員の2分の1を受講定員として設定した。 	引き続き各大学と連携してリレー形式の講座を実施する。感染防止策としていずれも教室定員の2分の1を受講定員として設定する。	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱5 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目		
(1)	人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	③	公開講座や大学施設の 情報発信	充実	学生向けアプリ KYO-DENT(「大学 のまち京都・学生の まち京都」アプリ)の 活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。 【(再掲)1-②】	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・ダウンロード数:19,901 DL ※2月末時点 ・ダウンロード数の増加に向けて、SNS等を活用した広報を実施。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種に関する情報等を学生へ発信した。 ・ニュース配信にて、オンラインイベントを積極的に配信した。 ・効果的な利用に向けてレイアウトの改善を図った。 ・安定的な運営に向けて、企業からの協賛を得た。(1件) 	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。 また、引き続きアプリを活用して新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種の情報等を学生へ発信していく。	京都市 大学コンソーシアム京都	
(2)	産学公連携によるイノベーションの創出及び京都経済の活性化	①	産学公の連携強化	充実	京都産学公連携機構	京都における産学公のあらゆる機関が相互に情報を共有しながら連携と協働を進めるための基盤として設立された「京都産学公連携機構」に参画。同機構が実施する産学公連携事業を支援。	H15	(令和元年度末をもって、産学公連携機構が廃止)	—	京都市	
					京都経済センター オープンイノベーションの推進((一社)京都知恵産業創造の森)	産学公連携を強化し、京都産業や地域社会の課題解決に向けた取組を推進。産学公連携の事務局である(一社)京都知恵産業創造の森がオール京都のネットワークを活かし、企業と大学のマッチングの強化や地域の発展に資する京都ならではの多様な産学公連携を推進。 ※平成31年4月、京都産学公連携機構は、(一社)京都知恵産業創造の森に統合	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・産学公連携によるオープンイノベーションを推進するためセミナー等を開催 ・企業ニーズと大学シーズ等を結び付ける相談窓口を設置・運営 ・産業支援機関の支援施策等の情報発信 	引き続き、産学公連携によるオープンイノベーションの推進や地域連携への支援、関係団体との連携による情報交換や情報発信等により、産学公連携を推進する。	京都市	
					京都「大学の知恵」 活用認定制度	京都の大学の研究成果を活用した商品や取組を認定する共通ロゴマークを使用することにより、大学の社会貢献を見える化するとともに、大学の研究成果の社会還元を推進し、産学連携や地域連携を通じた地域経済の活性化及び活力ある地域づくりを推進。	H29	令和2年度事業終了	—	京都市	

柱5 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(2) 産学公連携によるイノベーションの創出及び京都経済の活性化	② 大学の技術シーズの事業化	継続	京都市成長産業創造センターでの取組の推進	大学・研究機関、企業等の産学公が連携し、最先端の大学の技術シーズを着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進して、「グリーン・イノベーション」(環境エネルギー分野革新)と「ライフ・イノベーション」(医療・介護分野革新)を実現し、付加価値の高い高機能性化学品を生み出すとともに、その成果を地元の中小企業に橋渡しすることにより、京都市域における産業競争力の確保と新規事業を創出。また、人材育成や産学公の交流の場を提供し、幅広い情報交流の促進と新たな連携を創出。	H25	<ul style="list-style-type: none"> 大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進 入居者交流会の実施 	引き続き、大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクト等を推進する。	京都市	
	③ 大学との共同研究の推進による新事業創出支援	継続	京都市ライフイノベーション創出支援センター	大学及び中小・ベンチャー企業等の技術シーズ、医療機関等のニーズの発掘に常時取り組むとともに、有望な研究テーマについては大学・企業等との連携の下、事業化に向けて、産学連携のコーディネート活動を行うほか、国等の研究開発プロジェクト等に位置付けられるよう伴走支援を実施。また、大学発のシーズの事業化を進めるため、大学発ベンチャーの設立支援等も含め、発掘から事業化が見込める段階までの伴走支援を実施。	H22	革新的な医療技術に関する研究開発に対して助成(採択件数:24件)を行ったほか、ライフサイエンス分野における大学発ベンチャーの起業促進に向けて、ビジネスモデル構築等を実践的に支援する「KYOTO発起業家育成プログラム」(採択件数:3件)等を実施した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組として、イベント等をオンラインで開催あるいは開催を中止した。	引き続き、「京都発革新的医療技術研究開発助成事業」や「KYOTO発起業家育成プログラム」に取り組む。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組として、講座等のオンライン開催を予定している。	京都市	
			地域産学官共同研究拠点事業	平成21年12月に(独)科学技術振興機構(JST)の採択を受けた地域産学官共同研究拠点整備事業により、高度研究機器の配備を受け、先端光加工プロジェクト及びバイオ計測プロジェクトを推進。機器を活用し、共同研究の推進と中小企業への技術移転、高度技術者の育成等を促進。	H23	高度研究機器を活用した大学、企業等との共同プロジェクトを推進したほか、先端研究機器に精通した高度技術者等の育成(人材育成セミナー等の実施)等に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組として、拠点の一時閉鎖や、イベントの中止などを行った。	引き続き、高度研究機器を活用した大学、企業等との共同プロジェクトの推進や、先端研究機器に精通した高度技術者等の育成に取り組む。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組として、技術者育成講座等のオンライン開催を予定している。	京都市	

柱5 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目	
(2)	産学公連携によるイノベーションの創出及び京都経済の活性化	③	大学との共同研究の推進による新事業創出支援	継続	次世代産業×大学発ベンチャー 社会課題解決のための技術開発プロジェクト	社会課題の解決につながる研究を行う研究者に対し、研究開発への助成、実証実験のフィールドの提供、技術開発へのフィードバック等の支援を行い、製品・サービス等の開発を促進。さらに、こうした研究開発の成果を金融機関、ベンチャーキャピタル等の投資家に対して発表する場を提供し、大学発ベンチャーの起業を後押しし、次世代産業の振興を促進。	R2	研究開発への助成を行い、研究の進捗状況の報告会を実施。進捗状況の報告会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためオンラインで実施。	実施することとし、大学発ベンチャーの起業を後押しするとともに、次世代産業の振興を図る。	京都市
		④	コンテンツ産業の振興と担い手育成	充実	MANGAナショナルセンター(仮称)誘致推進事業	日本初のマンガ文化の総合拠点であり、MANGAナショナル・センター(仮称)のハブ(軸)機能としての位置付けを目指す京都国際マンガミュージアムの機能充実を図るとともに、作品コンテストや企業等とのマッチングを通じ、コンテンツ産業を支える優秀なクリエイターの育成を推進。	H30	・京都クリエイティブ企業キャリアフォーラムの開催(オンライン、9月3日～19日) ・京都国際マンガミュージアムPR事業	・京都クリエイティブ企業キャリアフォーラムの開催 ・京都国際マンガミュージアムPR事業	京都市
(3)	大学をいかした文化芸術環境の向上	①	新・文化庁との連携強化	新規	新・文化庁との連携	文化庁地域文化創生本部と締結した連携協定に基づき、新文化庁との連携を強化。(中核組織は令和5年3月に移転し、令和4年度中の業務開始を目指している。)	H30	今年度初めて文化庁地域文化創生本部がインターシップ事業の実習先となるなど、今後連携して事業を実施する土壌を醸成した。	引き続き文化庁地域文化創生本部をインターンシップ事業の受入先とするとともに、他の連携強化策についても検討する。	大学コンソーシアム京都
		②	大学の知をいかした文化力の向上	充実	生涯学習事業「京カレッジ」の充実	一般市民を対象とした生涯学習事業である「京カレッジ」において、新・文化庁との連携や「東京2020オリンピック・パラリンピック」等の時代のトピックスを踏まえた内容を反映。【(再掲)5-(1)】	H19	・26大学1機関(前年度29大学2機関)から198科目(同224科目)を提供し、延べ1,157名(同1,070名)の出願があった。 ・京都学講座を含む市民教養講座としてキャンパスプラザで開講した6科目(同78科目)の出願は801名(同624名)であった。大学リレー講座では11大学11講座をリレー形式で行い、平均100名程の受講となっている。感染防止策としていずれも教室定員の2分の1を受講定員として設定している。	・令和4年度「京カレッジ」京都力養成コースにおいて、京都の「復活」に焦点を当てた講座を開講する。 ・対面での講座実施となることから、受講定員は引き続き教室定員の2分の1として実施する。 ・令和4年度から開始する大学コンソーシアム京都主催の「リカレントプログラム」を京カレッジ科目に位置付け、京カレッジ科目の充実および受講者増につなげる。	京都市 大学コンソーシアム京都
		③	芸術系大学の集積をいかした文化芸術の振興	継続	Art-e Kyoto	芸術系5大学(京都市立芸術大学、嵯峨美術大学、京都精華大学、京都芸術大学(旧名称:京都造形芸術大学)、成安造形大学)と京都市立小・中学校が、それぞれの教育資源を生かし、美術教育の充実や、芸術を大切にす風土づくりを目指して連携。	H24	・「連携協議会」の開催(3回程度) ・大学・小中学校の連携事業 ・「京都芸術教育フォーラム2021」の開催(R4.1.21実施済)	・年3～5回の「連携協議会」の開催 ・大学・小中学校の連携事業 ・「京都芸術教育フォーラム2022」の開催	京都市

柱5 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
③ 大学をいかした文化芸術環境の向上	③ 芸術系大学の集積をいかした文化芸術の振興	継続	駅ナカアートプロジェクト	京都市内の芸術系大学等と連携し、地下鉄駅に芸術系大学生の作品を展示。	H23	【駅ナカアート2021】 地下鉄駅11駅での作品展示（令和3年9月～同年11月）及びアートラッピング市バス1両の走行（令和3年9月～令和4年8月予定） 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組として、オンライン会議や参加人数を限定した発表会等を実施した。	【駅ナカアート2022(仮)】 令和4年度に実行委員会を立ち上げ準備を進めていく。実施に向けた進め方等について、関係者と協議をしながら、地下鉄駅及びアートラッピング市バスの走行を予定している。（令和4年9月頃～） 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組として、オンライン会議の実施等、状況に応じて対応予定	京都市	
	④ 京都市立芸術大学新キャンパスを核とした文化芸術創造拠点の整備	新規	芸術大学移転整備事業	京都市立芸術大学が世界を視野に更なる飛躍を果たすとともに、文化芸術都市・京都の発展に大きく貢献することを目指して、「京都市立芸術大学移転整備基本計画」（平成29年3月策定）に基づき、平成29年度から設計に着手しており、令和5年度の供用開始を目指して、引き続き、移転整備事業を推進。	H29	工事に着手し、現在、工事を進めている。	令和5年度秋の開校に向け、引き続き新キャンパス建築工事を推進。	京都市	
	⑤ 「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生	新規	若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり	京都を拠点に活動する芸術家たちが京都のまちなかに居住し、活動し続けることができる環境を整え、まちの活力に繋げるための各種事業をHAPS(東山 アーティスツ・プレイメント・サービス)が実施。 京都駅東南部エリアにおいて、東九条にある空き家を借りて改修し、「HAPS HOUSE」を開設。HAPSが実施する「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」の中の相談事業(Social Work / Art Conference(SW/AC))の拠点等として活用。	H23	京都駅東南部エリアにある「HAPS HOUSE」を、相談事業(Social Work / Art Conference(SW/AC))の拠点として活用。	引き続き、「HAPS HOUSE」を相談事業(Social Work / Art Conference(SW/AC))の拠点として活用するほか、アーティストの制作・活動の拠点や地域へ開放するコミュニティスペースとしての活用を検討。	京都市	

柱5 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(3) 大学をいかした文化芸術環境の向上	⑤ 「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生	新規	京都駅東部エリアの活性化	京都駅東部エリアにおいて、京都市立芸術大学等の移転を踏まえた文化芸術を基軸としたまちづくりを進め、エリア活性化の機運を高めるとともに、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生を図るため、本エリアの学生、アーティストと地域の方、事業者等との交流を促進し、相互理解を深める「エリア内の地域資源活用事業」を京都駅東部エリアとも連携して実施する。	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・京都駅東部エリアの広報誌『5TO9』発行(8月, 11月, 2月) ・京都駅東部エリアの飲食店等におけるアート作品の展示等(9月～) ・「京都七条通界隈 商店街スタンプラリー2021」開催(11, 12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市立芸術大学移転予定地周辺で活躍する事業者やアーティストに係る特集記事、京都駅東南部エリアを含む周辺の地域・イベント情報を盛り込んだ広報誌を制作する。 ・地域の身近な場所を作品の展示・発表の場として活用できるよう、地域とアーティストの間をコーディネートするなど、アート作品を通じた地域との交流の場づくりを企画する。 	京都市	
(4) 大学と地域との連携の推進	① 大学と地域の連携強化	充実	「学まち連携大学」促進事業	大学等の教育・研究成果の蓄積や学生の活力を地域の課題解決や活性化につなげるとともに、地域社会との関わりの中で得られる学生の学びと成長の機会を創出する取組を、大学等の組織的な取組として定着させ、更に充実・発展させることを目的に、京都市内で地域と連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発・実施又は充実・発展に取り組む大学等を支援。	H28	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度からの採択校を引き続き支援した。 スタートアップ型:2件(京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部, 花園大学), 発展型:2件(京都橘大学, 龍谷大学) ・採択校の取組を広く発信し、加盟校の地域連携活動の活性化につなげるため、大学・地域シンポジウムを開催した。(令和3年11月6日) 	各大学において、今後の取組として、地域連携に関する正課科目の設置や教養教育における全学対象の体系的な教育プログラムの構築などを予定しており、引き続き、各大学における地域連携の取組を後押しすることで、地域連携に取り組む大学の裾野の拡大を図っていく。	京都市 大学コンソーシアム京都	★
			京都市の部局や区役所と大学との協定締結による連携事業の推進	京都市と大学の連携事業を推進。	-	大学と連携した取組の推進に努めた。	引き続き、大学と連携した取組の推進に努める。	京都市	
			大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)	魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生と地域が一体となって取り組む事業を広く募集し、助成金を交付するとともに、区役所等と協力し、学生と地域のつながりをより一層促進。 【(再掲)3-2】	H16	11事業を採択し、支援するとともに、地域連携WEBサイト等で取組事例の発信を行った。	引き続き、地域連携事業について支援を行う。 ・政策研究交流大会の発表者への広報等、広報の充実により、応募者の増加に努める。	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱5 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(4) 大学と地域との連携の推進	① 大学と地域の連携強化	充実	ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	京都市のふるさと納税に、「京都学生祭典」をはじめとした学生の挑戦を応援する寄付メニュー及び大学・学生と地域の連携強化等を図るための寄付メニューを開設し、「大学のまち京都・学生のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たっての財源確保を促進。	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市のふるさと納税制度における「京都学生祭典をはじめとした学生さんの挑戦を応援する寄付メニュー」において、寄付を募るとともに、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信に努めた。 ・大学との連携協定に基づき、大学・学生と地域の連携強化を図るため、各大学と協働する新たな応援メニューを開設し、各大学において、卒業生等を対象に、広く寄付を呼び掛けていただいた。 	引き続き、同メニューへの寄附の促進を図り、京都の学生を応援しようというファンを広く全国から獲得するとともに、各大学において実施する地域の連携強化等に関する事業の後押しを行い、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上につなげていく。【大学・学生と地域の連携強化等に関する協定大学】 R3:3大学→R4:24大学・短期大学	京都市	
	② 大学と地域の連携事例の発信	充実	大学・地域連携サミット	大学コンソーシアム京都加盟大学における地域連携の事例や、学まちコラボ事業等における大学・地域連携の事例を広く発信するとともに、地域連携活動に関わる学生、大学教職員、地域団体等が交流する機会として開催。	H28	<ul style="list-style-type: none"> 大学・地域連携シンポジウムを開催し、「学まち連携大学」促進事業の採択校の取組を発信するとともに、地域住民や学生を交えたトークセッションを実施した。 開催日：令和3年11月6日 テーマ：地域連携活動の醍醐味 内容：第1部 大学からの事例報告 第2部 トークセッション 	引き続き、取組の発信と交流の場の創出を図る。	京都市 大学コンソーシアム京都	
			大学・地域連携ウェブサイトの開設	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」（学まちコラボ事業）や「学まち連携大学促進事業」、各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し、新たな連携や取組の深化を促進。 【(再掲)3-(2)】	R1	サイトのレイアウトの改善を図るとともに、大学・地域連携シンポジウムの申込先とするなどして、閲覧数の増加を図った。	引き続き、地域連携に係る情報の配信を行うとともに、効果的なサイトのあり方について検討を行う。	大学コンソーシアム京都	
	③ 学生の力をいかした住民自治の活性化	新規	大学生の力を生かした田中宮市営住宅における住民自治活性化	田中宮市営住宅（伏見区）に学生が入居し、自治会活動に参加することで、地域コミュニティの活性化を促進。実施に当たっては、大学、当該市営住宅自治会及び本市が連携協定を締結し、事業を推進。	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・7名が入居し、自治会役員として自治会活動に参加 ・自治会行事については、コロナ禍につき縮小 ・関係者協議については、書面回議を実施 ・ゲストを招いた外部向けのオンラインイベントを3回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き7名が自治会活動に参加 ・関係者協議については、情勢を見極めながら、対面、オンラインを中心に行う。 	京都市	★

柱5 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(5) 小中高 大連携 の推進	① 教職員交流企画の実施	新規	高大連携教育 フォーラム	高大連携・接続に関する国内動向の情報共有と京都地域における取組の情報発信を目的として、京都市内外の高校教職員、大学教職員等を対象とした高大連携教育フォーラムを実施。	H15	・第19回高大連携教育フォーラム(オンライン開催 12/4・12/18 参加者数:144名) ※特別分科会②【高大社連携 キャリア教育】のみ12/18に実施	令和3年度に引き続き、高大連携教育フォーラムを開催する。テーマを含めた具体的な企画内容については、高大連携推進室に本協議会事務局(京都市教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会)を加えた拡大高大連携推進室会議において、多様な視点から意見を交わしながら、検討する。また、実施形態については、新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況にもよるが、現時点ではオンライン開催を基本軸に、可能であれば対面での開催も考える。	大学コンソー シウム京都	
			教職員交流企画の 実施	「高大接続改革」の推進が求められている中、各校が抱える課題の解決や教育改善に資するため、学校や設置者の別を越えて、教育上の工夫や悩みなどを共有し、解決に向けて交流する場として「京都高校教員交流会」を実施。	H30	・京都高校教員交流会(計4回) 第9回(5/29 オンライン開催) 参加者数7名 第10回(8/29 オンライン開催) 参加者数14名 第11回(10/16 ハイブリッド形式での開催)参加者数22名 第12回(2/1 ハイブリッド形式での開催)参加者数2名	令和3年度に引き続き「京都高校教員交流会」を開催する。本交流会の知名度向上を図るとともに、参加者自らが主体的に関与できるよう工夫しながら、4回以上の実施を目指す。なお、本交流会の実施が安定するまでの間は、高等学校教員を主な対象とするが、必要に応じて、大学教職員の参画の可能性についても検討を続ける。また、実施形態については、新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況にもよるが、現時点ではオンライン開催を基本軸とし、可能であれば対面もしくはハイブリッド形式での開催を考える。	大学コンソー シウム京都	

柱5 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(5) 小中高 大連携 の推進	② 高大社連携キャリア教育 企画の充実	充実	高大社連携キャリア 教育企画	高校生と大学生のキャリア発達を促すことを目的として、テーマを設けて高校生・大学生・社会人といった世代間や学校間を越えて対話し交流する「高大社フューチャーセッション」を実施。 【(再掲)3-3】	H30	・高大社連携フューチャーセッション(ハイブリッド形式での開催11/7) 【参加者数:高校生10名, 大学生16名(内訳:一般参加者 高校生3名, 大学生12名 実行委員参加者 高校生7名, 大学生4名)】 * 対面参加22名, オンライン参加4名 ・成果報告会兼振り返り会(「第19回高大連携教育フォーラム特別分科会②【高大社連携キャリア教育】」に位置づけ, オンライン開催 12/18) 【参加者数:一般参加者20名, 実行委員参加者11名】	令和3年度に引き続き、「高大社連携フューチャーセッション」を開催する。より多様な高等学校・大学の生徒・学生が参加しやすい企画となるよう、各組織間の連携協力のもと、開催時期・場所等に十分に配慮しながら検討を行う。また、キャリア教育における各校・各大学との積極的なネットワーク構築を図れるよう工夫を重ねる。 また、実施形態については、新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況にもよるが、可能であれば対面もしくはハイブリッド形式での開催を考える。	大学コンソーシアム京都	
	③ 学校・幼稚園における学 生の活躍の場の創出	継続	「学生ボランティア」 学校サポート事業	「大学のまち・京都」の特性を活かし、大学との連携のもと、教職を目指す学生を中心としたボランティアを学校・幼稚園に派遣し、各教科やクラブ活動の指導補助などの様々な支援を実施。一人一人の子どもに対するきめ細かな指導が充実し、学校教育活動が一層活性化するとともに、教職を目指す学生の意欲・資質を高めることにより、将来の学校教育を担う教員の確保と養成に貢献。	H15	学生ボランティア協定締結大学 等数 累計137校	引き続き、実施	京都市	
	④ 産学公連携による教育シ ステムの研究と発信	継続	京都教育懇話会	新たな次世代教育モデルの創造・構築に関する研究を深め、先進的な取組を京都から全国に発信するため、産学公で構成された京都教育懇話会の活動を推進。	H20	・京都教育懇話会(勉強会)の開催(5回程度)	・「京都21世紀教育創造フォーラム」の開催 ・年4～5回の京都教育懇話会(勉強会)の開催	京都市	
			京都こどもモノづくり 事業	産学公連携のもと、「ものづくり都市・京都」の特性を生かし、子どもたちがモノづくりに関して学んだり、体験したりする機会を創出・提供。	H21	○出前授業「京都モノづくり体験学習」…107校4,097名に対し実施。 ○殿堂の一般公開…延べ277名が来館。 ○京少年少女モノづくり倶楽部…登録会員数4,343件及び講座数104団体328件。 ○「トイ・コン チャレンジ」…小学校3～6年生を対象に実施し20名が参加。	○京都モノづくりの殿堂・工房学習 ○殿堂の一般公開 ○京少年少女モノづくり倶楽部…更なる登録会員数及び講座数の拡充。	京都市	

柱5 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(5) 小中高 大連携 の推進	⑤ 京都学生広報部への高 校生の参画の促進	新規	京都学生広報部	中高生と直接交流するイベントを開催するとともに、京都B&Sプログラムへ京都学生広報部の学生が参加し、修学旅行生に対して、ウェブサイト「コトカレ」等のPRを実施。	H27	<ul style="list-style-type: none"> ・催行件数は7件。中学生547名、高校生298名の生徒が大学生ボランティアガイド延べ159名の案内で京都のまち歩きを行った。 ・486名の大学生ボランティアが登録している。 ※2月末現在	引き続き、企画や京都B&Sプログラムとの協力等をおとして、京都学生広報部と中高生が直接交流する機会を創出する。	京都市 大学コンソー シウム京都	

柱6 国内外への魅力発信の強化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目		
(1)	「大学のまち京都・学生のまち京都」の中高生・保護者等への魅力発信	①	修学旅行者とその保護者等を対象としたPR	新規	街全体がキャンパス 学びの都 京都B&Sプログラム	全国から修学旅行で京都を訪れる中高生に現役大学生が観光地や大学キャンパスを一緒に街歩きし、京都の街・大学の魅力を伝達。	H26	・アプリの活用や学生団体への呼びかけをとおして、学生ボランティアの確保に努めた。 ・受入実績 7校(845名) ※オンライン実施を含む。 ※2月末時点	引き続き、学生ボランティアの確保に取り組み、京都の大学への関心を高め、京都の大学へ進学する学生の獲得につなげる。	京都市 大学コンソーシアム京都	
				京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	H27	京都B&Sプログラムの取組発信等を通じて、修学旅行者等を対象に京都の学生生活の魅力を発信した。	引き続き、京都B&Sプログラム等をおして、修学旅行者に対する京都の学生生活の魅力を発信する。	京都市 大学コンソーシアム京都		
				きょうと修学旅行ナビの運営	テーマ別モデルコースの紹介や、修学旅行関連資料の提供など、京都への修学旅行をサポートするウェブサイト運営。	H19	京都市内班別自主行動のコースづくり等の事前学習の充実を図るため、きょうと修学旅行ナビを運営した。 きょうと修学旅行ナビ内の新型コロナウイルス感染症の特設ページにおいて、修学旅行関係者のニーズを踏まえた新型コロナウイルス感染症に関する情報発信を行った。	京都市内班別自主行動のコースづくり等の事前学習の充実を図るため、きょうと修学旅行ナビを運営する。 きょうと修学旅行ナビにおいて、修学旅行関係者のニーズを踏まえた新型コロナウイルス感染症に関する情報発信を行う。	京都市		
	②	学生による京都で学ぶ魅力の発信	充実	京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	H27	・ウェブサイト「コトカレ」の他、SNS(Twitter, Instagramなど)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力を発信した。 ・よしもと祇園花月との連携企画等を検討した。	引き続き、学生目線による大学生活の魅力発信を充実させるとともに、企業等と協働した取組を展開する。	京都市 大学コンソーシアム京都	★	
	③	現役学生の保護者や卒業生、観光客等、幅広い層を対象とした情報発信	充実	京都版スタディーツーリズム	京カレッジや各大学の公開講座等の情報を、東京から幅広く発信することにより、京都で学ぶことを目的とした来訪を促進。	R1	京カレッジの情報等について、大学コンソーシアム京都のウェブサイト等で発信した。	引き続き、ウェブサイト等を活用した発信を実施するとともに、東京からの情報発信についても行う。	京都市 大学コンソーシアム京都		

柱6 国内外への魅力発信の強化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2記載項目		
(2)	留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信	①	留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信	充実	全国から京都へ！留学生の戦略的誘致事業	<p>更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。 【(再掲)2-(1)】</p>	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏向け京都進学説明会をオンライン開催(留学生計719名)した。 ・留学生の京都学び体験ツアーはコロナ禍により見送り、オンライン文化体験+先輩留学生座談会を3種実施(留学生計23名)した。 ・首都圏の日本語学校の教職員向け京都学び交流ツアーはオンライン交流会として開催(首都圏:9校, 京都側:13校)した。 ・誘致活動のためのオンラインコンテツツ強化のため「留学生ショートムービーコンテスト2021」を開催(応募作品数:14)した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京と中心として定着を図りつつ他の地域(福岡を想定)にも働きかけを行う。 ・京都進学説明会についてはオンラインを基本とし、留学生のツアーについては状況を見極めながら対面実施(難しい場合はオンライン対応等)できるよう取組を進める。教職員同士の交流機会創出にも引き続き取り組む。 ・留学生ショートムービーコンテストは周期事業に切り替え、別企画を検討実施する。 	京都市 大学コンソーシアム京都	
					留学生PRチーム	<p>京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、出身国等における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報について現地向けに発信。 【(再掲)2-(1)】</p>	H27	<ul style="list-style-type: none"> ・現役留学生による京都の留学情報を現地に発信するPRチームの運営(7箇国・地域、9名) ・学生アルバイトの感染予防のため在宅勤務も活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・現役留学生のPRチームによる、日本留学の情報発信 ・誘致や交流関係事業において体験談・バディ・翻訳等の取組を実施 ・引き続き状況に応じて在宅勤務を活用 	京都市 大学コンソーシアム京都	★
					「京都PR学生大使」制度	<p>京都ファンや京都への留学生数の増加を目的として、「京都PR学生大使」を任命し、日本人学生の海外留学への関心を高めるとともに、留学先でのコミュニケーションの不安を軽減することによる海外留学促進と、学生が留学先などで京都の魅力英語で的確に発信。 【(再掲)2-(4)】</p>	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・大学コンソーシアム京都主催の「英語で京都をプレゼンテーション講座」を修了した学生のうち、希望者を「京都PR学生大使」に任命 ・任命者数 12名 ・国内外において京都の魅力を発信 	引き続き、京都PR学生大使から国内外に向けて京都の魅力を発信する。	京都市	★
(3)	大学・市民向け広報の充実	①	市民向け広報の充実	充実	地域連携ウェブサイトの運営	<p>大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学促進事業」、各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し、新たな連携や取組の深化を促進。 (再掲)3-(2)</p>	R1	<p>サイトのレイアウトの改善を図るとともに、大学・地域連携シンポジウムの申込先とするなどして、閲覧数の増加を図った。</p>	引き続き、地域連携に係る情報の配信を行うとともに、効果的なサイトのあり方について検討を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都	
		②	「大学のまち」「学生のまち」の更なるPR	新規	シンボルマークの策定	<p>「大学のまち」「学生のまち」の認知度向上に向け、シンボルマークを策定し、京都の魅力を発信。</p>	-	-	方向性について検討を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱6 国内外への魅力発信の強化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和3年度進捗状況	令和4年度計画	実施主体	資料2 記載項目
(3) 大学・市民向け広報の充実	③ 大学・学生向け広報の充実	充実	学生向けアプリ KYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・ダウンロード数:19,901 DL ※2月末時点 ・ダウンロード数の増加に向けて、SNS等を活用した広報を実施。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種に関する情報等を学生へ発信した。 ・ニュース配信にて、オンラインイベントを積極的に配信した。 ・効果的な利用に向けてレイアウトの改善を図った。 ・安定的な運営に向けて、企業からの協賛を得た。(1件) 	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。また、引き続きアプリを活用して新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種の情報等を学生へ発信していく。	京都市 大学コンソーシアム京都	★